

(1) CS (視聴者満足) 活動

2005年度より、NHKでは本部および全国の放送局で「CS (視聴者満足) 活動」に取り組んでいる。この活動は、視聴者の要望や意見をきちんと受け止め、それを基にして、各現場が主体的に放送番組や業務の改革・改善を進め、視聴者サービスのより一層の向上を図ることが目的である。

「視聴者の声」を“経営資源”として、意向を的確に把握し、適切かつ迅速に業務に反映することに取り組んでいる。主な取り組みは、年1回・視聴者事業局が発行する「NHK視聴者ふれあい報告書2012」などで、視聴者に向けて報告した。

(2) 事業活動

公共放送NHKだからこそできる多彩な公開番組やイベントを全国各地で展開し、視聴者との結び付きの強化を図った。また、イベント参加者へのアンケートでは、イベントの満足度は全国平均で80%を超える高位の数値を得るとともに、アンケートの結果を踏まえ新たなイベントの企画に生かすPDCAサイクルを推進した。

『大河ドラマ』や『NHKスペシャル』と連動して特別展「平清盛」、特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」などNHKならではの展覧会を開催した。特にクローズアップ現代と連動した「尊厳の芸術展-The Art of Gaman-」では、困難の中でも人間の尊厳を失わなかった日系人の前向きに生きる姿を紹介した。また、10年の節目となった「NHK音楽祭2012」を開催するなど、国内外の優れた芸術や文化を紹介する事業に努め、“ホンモノの魅力”に触れる機会を積極的に創出した。

「防災」「環境」「福祉」「食料」などの社会的な課題を視聴者に訴えるキャンペーンや、未来を担う若い世代を対象としたイベントサービスや若い世代に向けたイベント、東日本大震災の被災者へ向けた取り組みを積極的に推進した。

こうした活動を通して、1,300万人を超える視聴者との交流を深めた。

(3) 積極的な情報公開の推進と個人情報の適切な取り扱い

視聴者への説明責任を果たすために、積極的な情報公開に努めた。11年度決算ではテレビ4波を10ジャンルに分け、各ジャンル別の番組制作費の総額(トータルコスト)を公表し、13年度予算発表時には10ジャンルに区分し、番組1本当たりの制作単価の目安を公表した。また、放送事業全体についての視聴者からの疑問に答えるため、「よ

くある質問集」をホームページ上に掲げ情報提供を行うとともに、随時内容の充実を図っている。そのほか、事業や財務に関して、48の文書を各放送局の窓口等に備え置き、ホームページ上にも掲載している。(表1)

また、個人情報保護法の趣旨を踏まえ、NHKとして、保有する視聴者の個人情報の適切な取り扱いに努めた。

(4) 広報活動

新しい経営計画の初年度にあたり、経営情報や番組情報を積極的に発信した。

受信料値下げ、放送機能強化、東日本大震災関連の取り組み、テレビ放送開始60年記念行事、ロンドンオリンピック、スーパーハイビジョン(SHV, (8K))等について重点的に広報するとともに、『大河ドラマ』、『連続テレビ小説』、『紅白歌合戦』等の放送番組のPRに全力を尽くす等、多彩な活動を展開した。

(5) 営業活動

12年度は、テレビ受信機のみが対象の受信料体系となってから初の受信料の値下げを10月から実施した。放送スポットやインターネット、リーフレット等により積極的に周知するとともに、値下げ額が大きいメリットを生かし、口座振替・クレジットカード等継続払の利用促進を図り、安定収納に努めた。

また、単身世帯等の面接困難世帯の増加等や、経済状況の低迷の長期化など営業活動を取り巻く環境は厳しい状況にあったが、3か年経営計画の初年度として営業改革を着実に進めるなど放送受信契約の増加と受信料の確実な収納に全力で取り組んだ。

契約・収納体制については、効果的・効率的な営業活動を推進するため、法人への委託を拡大した。あわせて、訪問によらない契約・収納活動の開発に取り組み、10月からは「公共機関への調査による住所変更届等の省略」、12月からは「設置確認メッセージを活用した放送受信契約書の書面提出の省略」について、それぞれ運用を開始した。

なお、民事手続きによる支払督促の申し立てについては、全国で1,639件実施し、これまでの累計で4,060件の申し立てを行った。その後も支払いに応じなかった138件については強制執行の申し立てを行った。未契約者に対する民事手続きについて、51件提起し累計で58件となった。

契約総数は、年度内に56万件(有料無料計)増加し、12年度末の契約総数(有料無料計)は

4,083万件となった。

衛星契約については、設置確認メッセージの活用や契約案内メッセージの全国展開、ケーブルテレビ事業者と連携した活動の展開等により、年度内に88万件（有料無料計）増加し、12年度末の衛

星契約数（有料無料計）は、1,737万件となった。

口座振替等については、年度内に70万件増加し、12年度末の利用件数は3,659万件となり、利用率は、95.9%となった。

表1 公表の取り組み

公表している情報	公表方法			
	文書の備え置き	インターネットホームページ	放送	官報・新聞等への掲載
経営委員会議事録	○	○		
理事会議事録	○	○		
平成24～26年度NHK経営計画	○	○		
平成21～23年度NHK経営計画	○	○		
番組審議会の議事概要（中央・地方・国際）	○	○	○	
番組基準（国内・国際）	○	○	○	
業務報告書および監査委員会の意見書	○	○	○ニュース等	
財務諸表、監査委員会の意見書、監査報告書	○	○	○ニュース等	○
決算の要約、概要		○		
連結財務諸表、監査報告書	○	○		
連結決算の要約、概要		○		
日本放送協会定款	○	○		
収支予算、事業計画及び資金計画	○	○	○ニュース等	○
収支予算、事業計画及び資金計画に関する説明資料	○	○		
経理規程	○	○		
役職員の服務準則	○	○		
役職員の報酬・給与等の支給基準	○	○		
国会でのNHK予算審議のまよう			○特別番組	
NHK放送ガイドライン2011	○	○		
放送番組編集の基本計画・放送番組編成計画（国内・国際）	○	○編成計画は概要	○新年度番組紹介	
各地方向け地域放送番組編集計画	○	○		
インターネットサービス基本計画	○	○		
NHKの情報公開のあり方に関する提言	○	○		
NHK情報公開基準・NHK情報公開規程	○	○		
NHK個人情報保護方針・NHK個人情報保護規程	○	○		
報道・著述・学術研究分野に係る個人情報保護規程	○	○		
NHK情報公開・個人情報保護審議委員会規程	○	○		
NHK情報公開・個人情報保護対応マニュアル	○	○		
情報公開の実施状況・個人情報開示等の求めへの対応状況		○		
放送受信規約・放送受信料免除基準	○	○		○
業務委託基準・業務委託契約要領	○	○		
番組制作の委託取引に関する自主基準	○	○		
関連団体運営基準	○	○		
関連団体の業務運営状況調査の結果	○	○		
関連団体事業活動審査委員会の活動結果	○	○		
NHKと関連団体との取引	○	○		
関連団体事業活動審査委員会規程	○	○		
子会社・関連会社の役員一覧	○	○		

公表している情報	公表方法			
	文書の 備え置き	インターネット ホームページ	放送	官報・新聞 等への掲載
環境報告書	○	○		
NHKことしの仕事	○	○日本語・英語		
デジタル時代のNHK懇談会報告書	○	○		
NHK“約束”評価報告書	○	○		
視聴者視点によるNHK評価報告書	○	○		
NHK第2次コンプライアンス委員会最終答申	○	○		
NHK視聴者ふれあい報告書	○	○		
視聴者対応報告		○		
視聴者の意見・要望の業務への反映事例		○		
お客さまの声・週刊トピックス		○		
NHKふれあいミーティング		○		
「NHK倫理・行動憲章」「行動指針」	○	○		
日本放送協会報	○			
放送番組表		○		
放送制度等に関するNHK意見		○		
世論調査結果、調査研究成果		○概要	○ニュース等	
会長・放送総局長会見要旨・資料		○		
報道発表資料		○		
随意契約の適正化	○	○		
NHK年鑑	○	○		
放送受信契約数統計要覧	○	○		
月刊「放送研究と調査」	○	○		
放送技術研究所「研究年報」	○	○		
隔月刊「NHK技研R&D」	○	○		

視聴者との対話

1. 視聴者との結びつき強化

(1) CS（視聴者満足）活動

12年度、全国のNHKに寄せられた視聴者からの意見や問い合わせは、合わせて397万件だった。11年度に比べておよそ56万件減少した。このうち番組への反響は、全国でおよそ130万件だった。

「すべては視聴者のみなさまのために」を貫き経営方針の組織風土改革を成し遂げるために、視聴者からの問い合わせに迅速・丁寧に応え、意見・要望を経営資源としてきちんと受け止め、番組制作や事業活動に反映していかなければならない。

視聴者から信頼され、役に立てるNHKであり続けるためには、多様な要望に迅速に応え、満足してもらうことが重要であり、この活動の繰り返しが“CS（視聴者満足）向上”に向けての取り

組みである。

(2) ふれあいセンター（放送）の取り組み

ふれあいセンター（放送）では、関係各部署と連携して、迅速、丁寧な対応を目指している。寄せられた視聴者の意見、要望はデータベース化し、経営や現場に速やかにフィードバックして番組編成や制作、業務運営に役立てている。

12年度にふれあいセンターで受け付けた視聴者からの意見・要望は、電話が81万7,353件、メールが16万510件で合計97万7,863件であった。

ふれあいセンターでは、コミュニケーション等による応対品質やスキルの向上を目指し、さまざまな研修を実施しているが、12年度は、外部専門業者の協力のもと、実際の応対をモニタリングし、指導・助言を含めてフィードバックする個別研修に加え、『大河ドラマ』や『あさイチ』のプロデューサーから直接話を聞くことで、より丁寧な応対ができるような職場研修を実施した。

2. 視聴者意向の収集と活用

(1) 「NHKふれあいミーティング」の開催

NHKの役職員と視聴者が直接触れ合い、NHKを身近に感じてもらいながら意見交換を行う「ふれあいミーティング」は05年にスタートした。全国各地で実施する公開番組収録の会場や番組の上映会、イベントの実施会場、会館見学と連動するなど、さまざまな形式で開催した。「ふれあいミーティング」は、視聴者との結び付き強化の中心的施策として、本部および全国各放送局で取り組んでいる。

(2) 「NHKハートプラザ」の活動

本部・全国各放送局・支局には、視聴者に開かれたNHKを目指して、番組や受信料などNHKに関する意見や問い合わせに直接担当者が対応する窓口として「NHKハートプラザ」を設置し、その機能強化を図っている。また、「ハートプラザ」は、経営計画や予算・決算書などを取りそろえ、NHKの情報公開の窓口としても機能している。12年度は、各放送局を巡回するハートプラザ用のミニ展示「ダーウィンが来た！」や「巡回パネル展」などを活用し、全国の放送局のハートプラザ来場者は、合わせて258万900人を数えた。会場には、幼い子どもを連れた家族が目立ち、若い世代との結び付きにつながっている。本部の「ハートプラザ」（放送センター4階・正面玄関横）は、6人のNHKサービスセンター職員・スタッフが、来局者や手紙（投書）・FAXでの、意見・問い合わせ、情報公開の窓口を担当している。また、グループ単位による事前申し込みを原則に、中学生・高校生による「企業訪問学習」を積極的に受け入れている。視聴者がNHKを訪れて直接触れ合う接点として、気軽に足を運ぶことができる場となっている。12年度は1万3,626人が窓口を訪れ、手紙（投書）が1万6,884通、FAXが1万7,132通寄せられた。

(3) 12年度視聴者意向

①意向の件数と内容

電話、メール、手紙、FAX、来局、ふれあいミーティングなどで、全国の放送局に寄せられた12年度の意向件数は397万件になった。

12年度視聴者意向件数（単位 千件）

（※関連団体への意向件数は含まず）

※内容別内訳

区分	経営関係	放送関係	受信料関係	技術関係・受信相談	その他	合計
件数	4	1,500	1,961	136	367	3,968
%	0.1%	38%	50%	3%	9%	100%

※受付方法別内訳

区分	電話	投書	来局	FAX	インターネット	その他	合計
件数	3,308	102	62	20	449	27	3,968
%	83.4%	2.6%	1.6%	0.5%	11.3%	0.6%	100%

番組別では、『あさイチ』が4万9,500件で最も多く、次いで『ためしてガッテン』に3万8,600件、『NHKニュース おはよう日本』に3万4,100件、『ニュースウオッチ9』に3万200件、『連続テレビ小説』に2万5,900件の意見・問い合わせが寄せられた。

②意向の集約・周知

視聴者部では、ふれあいセンター（放送）や全国の各放送局に寄せられた意見・問い合わせなどを集約して、概要のほか主な番組への意見、受付形態別の件数などを掲載し、1日の視聴者の声の傾向をまとめた「日報」を発行している。

また、1週間ごとの傾向をまとめた「週刊視聴者の声」では、反響が多かった番組への主な意見内容、再放送を希望する理由の分類などを掲載し、番組編成に役立てている。1か月ごとの傾向をまとめた「月刊視聴者の声」は、番組審議会の資料としても利用されている。「日報」「週刊視聴者の声」「月刊視聴者の声」は「VOISシステム」に登録し、全職員が閲覧できるようにしている。

また、08年度4月の放送法改正で、視聴者からの苦情その他の意見に適切かつ迅速に対応し、その対応結果を経営委員会に報告することが義務づけられたことに伴い、ふれあいセンターや本部各部署、全国の放送局に寄せられた意見・苦情などをとりまとめて、3か月に一度「視聴者対応報告」を作成、理事会で審議決定し経営委員会に報告した。「視聴者対応報告」は、ホームページに掲載し視聴者も閲覧できるようにした。

③寄せられた視聴者の意見と業務への反映

視聴者から寄せられた意見・要望や、業務の改善事例などをまとめた「みなさまの声にお応えして～NHK視聴者ふれあい報告書2012」を、全国の放送局の協力を得て作成し5月に発行した。「NHKオンライン」上でも公開した。

3. NHKネットクラブ

NHKネットクラブは、インターネット会員サービスとして「視聴者との双方向の回路の充実」「受信料支払者の満足度の向上」「インターネット自主申出の拡大による営業経費の圧縮」を目的に、09年10月27日にスタートした。

12年度は、番組との連携を拡大するとともに、データ放送と連動して『連続テレビ小説』『梅ちゃん先生』『純と愛』でスタンプラリーを開始した。また、美術展の特別鑑賞会の開催やスタジオ収録の舞台裏見学ツアー、海外ドラマの公開記者会見に招待するなど会員サービスの充実に努め、年間で約43万人の会員増があり、年度末の会員数は約220万人となった。

イベント事業

I. 公開番組

(1) 地域で実施する全国放送公開番組

12年度は、477本の公開番組を全国各地で実施。総合テレビ84本、Eテレ34本、衛星放送41本、ラジオ・FM318本の公開番組を地方自治体などの協力を得ながら実施した。東日本大震災の被災地復興支援として、『NHK歌謡コンサート』（11月6日福島県会津若松市）や『NHKのど自慢』（8月12日福島県いわき市、13年1月6日岩手県大船渡市、3月10日宮城県岩沼市）、『BS日本のうた』（4月26日宮城県仙台市、5月24日岩手県盛岡市、6月7日福島県郡山市）などの公開番組を被災県で実施した。

また、NHK大阪ホールで22本、地域放送局スタジオなどで59本の公開番組を実施したほか、『歌謡チャリティーコンサート』（2本）などを有料で実施した。

(2) NHK内、都内外部施設で実施する公開番組

NHKホール、ふれあいホールなどのNHK施設、ニッショーホールなどの都内外部施設で公開番組を実施した。

【定時番組】

NHKホールで公開した定時テレビ番組は、『NHK歌謡コンサート』（38本）10万4,741人、『MUSIC JAPAN』（9本）2万4,583人、『ザ少年倶楽部』（12本）3万4,757人。

ふれあいホールで公開した定時テレビ番組は『オンパト+』（8本）3,308人、『みんなDEどー

もくん!』（25本）5,370人。定時ラジオ・FM番組は『新・話の泉スペシャル』（5本）1,193人、『セッション2012』（34本）8,265人、『ライブビート』（9本）1,593人、『ホリデーライブ』（5本）1,133人。

【主な特集番組】

『NHK東西浪曲大会』

7月20日 ニッショーホール 541人。

9月1日 NHK大阪ホール 1,156人。

『第42回NHK講談大会』

7月21日 ニッショーホール 544人。

『ふるさと民謡夏列島2012』

7月14日 ふれあいホール 216人。

『日本のフュージョン』

9月16日 ふれあいホール 240人。

『第44回思い出のメロディー』

8月11日 NHKホール 2,573人。

『名医にQスペシャル2012』

10月30日 ふれあいホール 183人。

『NHK新人演芸大賞〈演芸部門〉』

10月20日 ふれあいホール 202人。

『NHK新人演芸大賞〈落語部門〉』

10月20日 ふれあいホール 206人。

『新春！民謡列島2013』

12月15日 ふれあいホール 222人。

『第63回NHK紅白歌合戦』

12月31日 NHKホール 2,727人。

『NHK介護百人一首』

2月2日 ふれあいホール 206人。

『家族で選ぶにっぽんの歌』

2月8日 NHKホール 2,750人。

『NHKのど自慢チャンピオン大会2013』

3月2日 NHKホール 3,152人。

『震災から2年“明日へ”コンサート』

3月9日 NHKホール 2,918人。

『第42回日本農業賞 表彰式・大地の恵み歌謡ステージ』

3月10日 NHKホール 2,599人。

II. 公共放送ならではの イベント・キャンペーン

1. NHKハートプロジェクト

すべての人がともに生きる社会を目指し、NHKの福祉番組やイベントを取りまとめた福祉キャンペーン「NHKハートプロジェクト」を05年度から展開し、公共放送だからこそ可能な福祉への

取り組みを総合的にアピールしている。

(1) NHK歳末たすけあい・NHK海外たすけあい

12月1日から25日まで中央共同募金会（歳末たすけあい）、日本赤十字社（海外たすけあい）、NHK厚生文化事業団とともに実施した。受付は、全国のNHK各放送局、郵便局、取り扱い標示のある金融機関、JA、JF（漁協）、共同募金会、日本赤十字社など。

歳末たすけあいは、5万4,570件、6億3,695万6,067円で、各都道府県共同募金会を通じて国内の福祉施設や支援を必要とする人々に配分される。海外たすけあいは、7万3,960件、7億2,472万2,272円で、日本赤十字社を通じて世界各地の紛争や自然災害などに苦しむ人々のために使われる。また、たすけあいのPRイベントとして、11月17日にベルサール秋葉原で「あなたのやさしさを2012」を実施した。入場者4,800人。

(2) 災害たすけあい

国内外で発生した非常災害に応じて日本赤十字社などと連携し3件の災害たすけあいを実施した。

①「東日本大震災義援金」（11年3月14日～14年3月31日までの予定）②「福岡県豪雨災害義援金」（12年7月20日～8月31日）③「京都府南部豪雨災害義援金」（12年8月20日～10月31日）。

(3) 第17回NHKハート展

障害のある人が日常の生活の中で感じたことをつづった「詩」と、各界で活躍中のアーティスト・著名人がその詩のイメージを、ハートをモチーフに表現した「アート」を組み合わせた展覧会で、94年から開催している。第17回は5,680編の詩の応募があった。展覧会は全国12会場で開催した。入場者数4万8,122人。

(4) NHKハートフォーラム

福祉番組の公開放送やさまざまなテーマのフォーラムを以下の9つのジャンルに分けて全国で48回実施した。入場者54万4,905人。

主催：開催地のNHK放送局、NHK厚生文化事業団、開催地の自治体ほか。

- ①「ハートネットTV・公開すこやか長寿」
(Eテレの公開番組)
10回実施 入場者2,973人
- ②「高齢者福祉」
3回実施 入場者522人
- ③「認知症」
14回実施 入場者8,937人
- ④「うつ病・躁うつ病」

2回実施 入場者816人

- ⑤「ボランティア」
1回実施 入場者353人
- ⑥「障害福祉」
7回実施 入場者2,335人
- ⑦「発達障害」
8回実施 入場者3,284人
- ⑧「震災関連」
2回実施 入場者685人
- ⑨「新しい福祉」
1回実施 入場者52万5,000人

(5) NHKハートスポーツフェスタ

障害のある人もない人もスポーツを通して交流を深めることで、心のバリアフリーを目指し、01年から実施している。

12年は佐賀県、東京都、千葉県、長野県の4か所、ポッチャやブラインドサッカーなどの競技を実施した。参加者2,380人。

主催：NHK、NHK厚生文化事業団

共催：財団法人日本障害者スポーツ協会

(6) NHK介護百人一首

毎年、介護に関わる人々が日々の生活の中で詠んだ短歌を全国から公募し、「NHK介護百人一首」として100首を選定している。12年度は過去最高となる1万2,394首の短歌が幅広い世代から寄せられた。

・Eテレの『ハートネットTV』で「介護百人一首」の公開収録をNHKふれあいホールで実施した。入場者206人。

・100首の短歌を取めた作品集を発行。

・介護百人一首パネル展を各局ロビー等、14会場で開催。

(7) 第47回NHK障害福祉賞

障害のある人自身の体験記録や障害児・者の教育・福祉の実践記録を募集し優秀作品を表彰した。12年度は466編の応募があった。

(8) NHK銀の雫文芸賞2012

「高齢社会をどう生きるか」をテーマにした文芸作品を募集し優秀作品を表彰した。08年度からNHKが主催に加わりNHK厚生文化事業団とともに実施した。応募数は772編。

(9) 第46回NHK福祉大相撲

人気力士と歌手の歌くらべや横綱綱締め実演、幕内取組などを楽しんでもらうイベントを13年2月9日に国技館で実施した。入場者数4,190人。純益で福祉車両「福祉相撲号」を購入し、全国の福祉施設・団体に計6台を贈呈した。12年度までの贈呈台数は延べ279台。

2. 公共放送キャンペーン

(1) NHK防災キャンペーン

公共放送の使命として、“いざという時のNHK”という意識の浸透を図るとともに、視聴者の防災意識を高めるため、07年度からスタートしたキャンペーン。特に12年度は、東日本大震災後、視聴者の防災に対する関心が高まる中、イベントを通して、地域の特性や課題に即した防災・減災について考える機会とした。

①防災パーク2012

9月1日の「防災の日」に合わせて、12年8月25～26日NHK放送センターで開催。東日本大震災被災地の3D映像の上映、消防・警察の特殊車両の展示や乗車体験、防災をテーマにした各種体験（ワークショップ）などを実施した。来場者数は1万131人。

②地域イベント

地域の課題を踏まえたテーマを取り入れ、防災・減災に関するイベントを実施した。全国16会場で開催。参加者1万7,954人。

(2) NHK環境キャンペーン 地球エコイベント

人類共通の課題ともいえる環境をテーマに「NHK環境キャンペーン 地球エコイベント」を全国で展開した。

①NHKエコ・パーク2012

12年6月2～3日にNHK放送センターで開催し、1万4,252人の参加があった。東日本大震災以降、生活のあり方が見直されている状況を踏まえ、「節電・省エネルギー」「エネルギーシフト」等をテーマに、環境に関連した番組のステージやワークショップ、大学生・NPO団体と連携した参加・体験型のブースを展開した。また、会場にはイベントのシンボルとして流木で作ったツリーハウスを展示した。

②地域イベント

エネルギー問題や自然環境や生物多様性の保全など、地域特有の課題に即したイベントを全国38会場で開催した。参加者34万2,355人。

(3) ふるさとの食 にっぽんの食

01年度より「日本の食文化の伝承」「地産地消」「食育」をテーマに全国で展開しているキャンペーン「ふるさとの食 にっぽんの食」。JAやJF（漁協）などと実行委員会を組織し、全国的に推進している。

①全国フェスティバル

13年3月9～10日にNHK放送センターと代々

木公園で開催。来場者4万5,647人。

②地域イベント

全国43会場で開催。参加者53万9,069人。

③食料フォーラム

愛知県（9月）、宮城県（2月）の2会場で開催。入場者911人。

Ⅲ. こども・青少年イベント

(1) 「大!天才てれびくん」公開収録

入場者4,024人。（2回公演）

(2) おかあさんといっしょファミリーコンサート

①東京公演

春：5月3～6日、秋：11月1～4日、NHKホールで実施した。チャリティー金は社会福祉の向上に役立てた。

主催：NHK、NHKサービスセンター、NHKプロモーション、NHK厚生文化事業団

出演：横山だいすけ、三谷たくみ、小林よしひさ、上原りさ ほか。

入場者：（春・8公演）2万5,399人

（秋・8公演）2万4,982人

②地方公演

11年度に東日本大震災の影響で中止となった宮城県名取市分を含む全国11会場（30公演）で実施した。チャリティー金は、さまざまな社会福祉活動に役立てた。

入場者：4万6,499人

(3) いないいないばあっ! あつまれ! ワンワンわんだーらんど

『いないいないばあっ!』の人気キャラクター・ワンワンほか出演者たちが歌や踊りを繰り広げる番組連動型のステージショー。全国10会場（22公演）で実施した。チャリティー金は、社会福祉向上に役立てた。入場者3万1,900人。

(4) おかあさんといっしょ宅配便「ポコポッテイト小劇場」

『おかあさんといっしょ』のキャラクター「ポコポッテイト」が全国を巡回するミニステージショーを60会場（120公演）で実施した。入場者5万7,924人。

(5) 「おかあさんといっしょ あつまれ! 土曜日」スタジオ収録

『おかあさんといっしょ』の土曜日放送分のみで、子どもが参加するコーナーの収録を実施した。全国の子どもたちに番組出演の機会を提供し、視聴者サービスの充実を図った。7会場収録し、

計21本を制作。参加者547組1,097人（3歳児とその保護者）。

出演：小林よしひさ、上原りさ

(6) NHK放送体験クラブ

小学校5・6年生を対象に全国各放送局で番組づくりの体験を通し、楽しみながら放送のことを学習するイベントとして実施した。全国54放送局と5支局で実施。参加した児童の様子や制作した作品は地域放送で紹介し視聴者サービスに努めた。参加876校5万997人。

(7) 「第79回NHK全国学校音楽コンクール」

都府県（北海道は地区）、ブロックの各コンクールを経て選ばれた小学校・中学校・高等学校の代表各11校（組）が、10月6～8日にNHKホールで行った全国コンクールに出場した。課題曲のテーマは「ひかり」。金賞：成城学園初等学校（初受賞）、会津若松市立第四中学校（初受賞）、千葉県立幕張総合高等学校（初受賞）。

全参加校数：小学校の部909校、中学校の部1,206校、高等学校の部466校、計2,581校。

(8) 第29回NHK杯全国中学校放送コンテスト

各都府県（北海道は地区）大会は5～7月に実施。全国大会決勝は8月20日、千代田放送会館で実施した。部門は、アナウンス・朗読・ラジオ番組・テレビ番組の4部門。参加校は全国で612校。各部門の参加数アナウンス870人、朗読1,398人、ラジオ番組126作品、テレビ番組106作品。

(9) 第59回NHK杯全国高校放送コンテスト

5～6月に各都道府県大会、7月24～25日に国立オリンピック記念青少年センター、26日にNHKホールで全国大会を実施した。部門は、アナウンス・朗読・ラジオドキュメント・テレビドキュメント・創作ラジオドラマ・創作テレビドラマの6部門。参加校は全国で1,667校。参加生徒数延べ1万7,293人。

(10) アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2012

全国の高等専門学校57校（62キャンパス）から124チームが参加。競技課題に従い、自らのアイデアを駆使して想像力と技術力を競った。8地区からの選抜25チームが11月25日の全国大会（会場：国技館）に出場。地区大会からの延べ参加者1万4,994人。

(11) NHK大学ロボコン2012

～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～

事前審査を通過した国内21大学のチームが6月10日の大会（会場：国立オリンピック記念青少年

総合センター）に出場した。参加者1,288人。優勝チームは、8月19日に香港で開催されたABUアジア・太平洋ロボットコンテストに出場した。

(12) 渋谷DEどーも2012

～NHKげんきランド～

「BS番組のPR」「震災復興支援」などを柱に、ファミリー層をメインターゲットとした内容のイベントを5月3～6日にNHK放送センターで実施した。参加者6万6,686人。

(13) NHK@秋葉原2012～NHKアニメ館2012

サブカルチャーやアニメの聖地として若者が集まる秋葉原のベルサール秋葉原で、NHKのアニメをPRするイベントを11月17～18日に行った。NHK歳末・海外たすけあいを紹介する「あなたのやさしさを2012」と連動して実施し、若い世代との接触を図った。参加者1万5,300人。

(14) NHK@秋葉原2012 [NHK WONDER LAND 2012]

サブカルチャーの聖地として若者で賑わう秋葉原で番組収録や展示イベントなどを実施した。

12月15～16日 アキバ・スクエア 8,183人

(15) NHK 紅白 WONDER LAND

@東京タワー

『第63回NHK紅白歌合戦』に合わせて、12月31日に東京タワーで、スーパーハイビジョンおよびハイビジョンによるライブビューイングなどを実施した。来場者1万5,500人。

(16) NHK 春ナビ WONDER LAND@渋谷

新年度の番組改定に合わせて、13年3月30、31日に若者や女性で賑わう複合施設「渋谷ヒカリエ」で公開生放送や番組収録、トークイベントなどを集中的に実施した。来場者1万9,507人。

IV. 教育・教養イベント

(1) NHK文化祭2012

10月18日～11月4日、NHK放送センターを中心に、教育番組の国際コンクール「日本賞」を核に実施。「ふるさとの食 につぼんの食・東京フェスティバル」とも連動。公開イベント「NHK文化祭たいけん広場」（11月3～4日）では、「つながろう！みんなの元気」をテーマに、Eテレの番組をベースにした親子で楽しめるステージのほか、ワークショップ、ラジオ番組の公開生放送や録音等を実施した。来場者5万2,190人。

(2) 放送教育関連イベント**①第63回放送教育研究会全国大会（東京大会）**

8月2～3日に国立オリンピック記念青少年センターで、NHKの学校放送番組やデジタル教材を活用した実践事例の発表や、番組制作者・研究者も交えた討議などを行い、放送教育の研究と交流を深める場となった。第16回視聴覚教育総合全国大会と合同で開催した。参加者1,096人。

②放送教育研究会地方大会

各地方放送教育研究会などと共催し、全国7ブロックで地方大会を開催した。参加者2,236人（表1）。

③先生のためのデジタルテレビ・ICT活用講座

放送教育実践者による模擬授業やメディア教育研究者のワークショップを通じて、学校放送番組やデジタル教材の活用を支援する。全国10会場で開催した。参加者490人。

(3) 平成24年度「NHK全国短歌・俳句大会」

1月19（短歌）、20日（俳句）、NHKホールで実施した。NHK学園共催。応募は短歌4万3,411首、俳句8万2,945句。参加者は短歌1,534人、俳句2,310人。

(4) NHK公開セミナー

『大河ドラマ』『平清盛』『八重の桜』、『きれいの魔法』等の番組を題材に、NHK文化センター、地方自治体等と共催、全国18会場で実施した。参加者5,081人。

(5) 子育て世代向けイベント「Let's tryプレキソ英語in○○」

Eテレ『プレキソ英語』の番組キャラクターCowdoji（カウドージ・茂山童司）出演によるイベントを全国5会場で開催。参加した小学生とその保護者が番組出演者と直接触れ合い、英語を通じたコミュニケーションを体験することで番組の視聴につなげた。参加者1,322人。

(6) 学校へ出向き実施するイベント

出演者が直接小・中学校へ出向いてNHKとの接触の機会を作り、公共放送への理解を深めてもらった。

①NHK子ども音楽クラブ～N響が○○小学校（中学校）にやってきた～

NHK交響楽団のメンバーが小・中学校に出向いて児童・生徒との交流を交えながら演奏を行うミニコンサート。12年度は全国の小・中学校9会場（うち、被災地3会場）で開催した。クラシックの名曲を演奏。参加者4,693人。

②NHK朗読ひろばat○○小学校～アナウンサーが広げることばの世界～

NHKアナウンサーが小学校に出向く朗読イベント。アナウンサーが映像や音による演出を加え、教科書や絵本から作品を朗読した。全国6会場で実施した。参加者928人。

V. 美術・展博イベント**(1) アントワープ王立美術館所蔵 ジェームズ・アンソール**

「仮面の画家」と称されるベルギー近代絵画を代表する画家、ジェームズ・アンソールの回顧展。彼に影響を与えた画家の作品を含む約100点を展示した。

主催：開催地美術館、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社ほか。有料。全国4会場（愛知、東京、岩手、岡山）。会期：12年4月14日～13年3月17日。入場者5万8,665人。

(2) 生誕100年 松本竣介展

日本近代美術を代表する画家のひとりである松本竣介の生誕100年を記念した回顧展。代表作の油彩約120点、素描や書簡等の資料類など、合わせて約250点を展示した。

主催：開催地美術館、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社ほか。有料。全国5会場（岩手、神奈川、宮城、島根、東京）。会期：12年4月14日～13年1月14日。入場者7万5,400人。

(3) 近代洋画の開拓者 高橋由一

日本で最初の「洋画家」と言われる高橋由一の回顧展。重要文化財の《鮭》や《花魁》をはじめ約170点を展示した。

主催：開催地美術館、読売新聞社、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社。有料。全国2会場（東京、京都）。会期：12年4月28日～10月21日。入場者12万7,683人。

(4) 大英博物館 古代エジプト展

ロンドン五輪の開催に合わせて、大英博物館の古代エジプトコレクションの中から『死者の書』を中心に、ミイラや、棺、副葬品など約180点を展示した。

主催：開催地美術館、大英博物館、朝日新聞社、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社。有料。全国2会場（東京、福岡）。会期：12年7月7日～11月25日。入場者37万5,204人。

(5) 古事記1300年 出雲大社大遷宮 特別展覧会「大出雲展」

古事記編纂1300年、出雲大社大遷宮を機に、出

雲の古社、そして関わりの深い古寺の宝物と、出雲の重要遺跡から出土した品々を一堂に紹介した。

主催：京都国立博物館、島根県、島根県立古代出雲歴史博物館、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、読売新聞社。有料。京都国立博物館。会期：12年7月28日～9月9日。入場者7万9,218人。

(6) 特別展「中国 王朝の至宝」

日中国交正常化40周年を記念して、夏から宋の時代にわたる中国歴代の王朝の都・中心地域に焦点をあて、それぞれの地域の特徴が凝縮された代表的な文物およそ170件を展示した。

主催：開催地博物館、中国文化交流中心、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社ほか。有料。全国4会場（東京、兵庫、愛知、福岡）。会期：12年10月10日～13年9月16日。入場者14万1,507人（東京）。

(7) 古事記1300年 出雲大社大遷宮 特別展「出雲―聖地の至宝―」

古事記編纂1300年、出雲大社大遷宮を機に、出雲大社の文化財や、出雲地域の遺跡から出土した青銅器類、社寺等に伝わる名宝を一堂に紹介した。

主催：東京国立博物館、島根県、島根県立古代出雲歴史博物館、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社。有料。東京国立博物館 本館特別5・4室。会期：12年10月10日～11月25日。入場者13万7,646人。

(8) エル・グレコ展

没後400年を迎えるスペイン絵画の巨匠エル・グレコの、国内では26年ぶりとなる大回顧展。油彩およびテンペラ画51点を展示した。

主催：開催地美術館、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社、朝日新聞社。有料。全国2会場

（大阪、東京）。会期：12年10月16日～13年4月7日。入場者19万1,207人（大阪）。

(9) 東京国立近代美術館60周年記念特別展「美術にぶるっ！ベストセレクション 日本近代美術の100年」

第1部では、所蔵する重要文化財全13点を展示し、第2部では、東京国立近代美術館が生まれた1950年代の美術作品296点を展示した。

主催：東京国立近代美術館、NHK、NHKプロモーション。有料。東京国立近代美術館。会期：12年10月16日～13年1月14日。入場者10万3,317人。

(10) 尊厳の芸術展-The Art of Gaman-

太平洋戦争中アメリカ国内で強制収容された日系アメリカ人が収容所内で制作した日用品や美術工芸品99件を紹介した。

主催：開催館、開催地NHK放送局 ほか。無料。全国5会場（東京、福島、宮城、沖縄、広島）。会期：12年11月3日～13年9月1日。入場者6万2,928人（東京、福島）。

(11) 特別展「飛騨の円空」

江戸時代の仏師・円空が岐阜県高山市に残した仏像約100体を展示した。

主催：東京国立博物館、千光寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション。有料。東京国立博物館 本館特別5室。会期：13年1月12日～4月7日。入場者19万122人。

(12) 特別展「書聖 王羲之」

日中国交正常化40周年を記念し、4世紀に活躍した書家・王羲之の名品を一堂で紹介した。世界でも10点余りしか確認されていない唐時代の精巧な摸本のうち5点を展示した。

主催：東京国立博物館、毎日新聞社、NHK、NHKプロモーションほか。有料。東京国立博物館。

表1 2012年度「放送教育研究会地方大会」

ブロック	タイトル	日程	開催地	全体会場	参加者数
北海道	第64回北海道放送教育研究大会 北広島大会	11月22日（木）	北海道北広島市	北広島市芸術文化ホール	390
東北	※ブロック大会休会				
関東甲信越	平成24年度関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会 千葉大会	11月2日（金）	千葉県千葉市	千葉市文化センターアートホール	380
東海・北陸	第50回東海北陸地方放送教育研究大会 第44回愛知県放送教育特別研究会	8月17日（金）	愛知県名古屋	ウイंकあいち	303
近畿	第61回近畿放送教育研究大会兵庫大会 第62回近畿学校視聴覚教育研究大会兵庫大会	11月22日（木）	兵庫県神戸市	神戸市立魚崎小学校	262
中国	平成24年度中国地方放送教育研究会 夏期特別研究交流大会 島根（松江）大会	8月8日（水）	島根県松江市	サンラポーむらくも	103
四国	第47回放送教育研究会四国大会高知大会	11月2日（金）	高知県いの町	いの町立伊野南小学校	300
九州	第61回九州地方放送教育研究大会 大分（別府・日出）大会	10月26日（金）	大分県別府市	別府市中央公民館	498
					2,236

会期：13年1月22日～3月3日。入場者15万2,523人。

(13) 国立マイセン磁器美術館所蔵「マイセン陶磁器の300年」展

西洋磁器の発祥となったドイツ・マイセン磁器製作所の300年にわたる歴史の全容を、約160件で紹介した。

主催：開催地美術館，国立マイセン磁器美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社。有料。全国4会場（東京，長野，兵庫，大阪）。会期：11年1月8日～12年7月22日。入場者6万5,837人（大阪）。

(14) 「大河ドラマ50の歴史展」

50周年の節目を迎えた大河ドラマを貴重なアーカイブ映像で全作品を紹介したほか，戦国武将ゆかりの甲冑や美術工芸品などを展示した。

主催：開催地NHK放送局，NHK地域関連会社ほか。無料。全国13会場（東京，京都，新潟，大阪，神奈川，静岡，愛媛，愛知，群馬，広島，岡山，福岡，島根）。会期：11年5月11日～13年1月10日。入場者2万2,906人（広島，岡山，福岡，島根）。

(15) 「ゲッリーノ・トラモンティ展」

イタリア・ファエンツァ市出身の陶芸家・ゲッリーノ・トラモンティを日本で初めて約150点で紹介した。

主催：開催地美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社，ファエンツァ市，ゲッリーノ・トラモンティ財団。有料。全国3会場（東京，兵庫，愛知）。会期：11年9月10日～12年10月14日。入場者数：1万5,711人（兵庫，愛知）。

(16) 「犬塚勉展－純粋なる静寂－」

スーパーリアリズムともいえる精緻な描写で自然を写し取る絵画を追究した犬塚勉を約110点で紹介した。

主催：開催地美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社。有料。全国4会場（東京，京都，長野，広島）。会期：11年9月7日～12年12月25日。入場者1万9,936人（長野，広島）。

(17) 「柳宗悦展－暮らしへの眼差し－」

独自の審美眼により新しい美の概念と工芸理論を展開した柳宗悦を彼が収集した中から選りすぐりの約200点で紹介した。

主催：開催地美術・博物館，日本民藝館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社ほか。有料。全国7会場（東京，神奈川，大阪，鳥取，広島，長野，滋賀）。会期：11年9月15日～13年11月24日。入場者1万5,538人（鳥取，広島）。

(18) NHK大河ドラマ50年 特別展「平清盛」

平清盛が厳島神社に奉納した国宝「平家納経」をはじめ平安末期の美術・工芸品約130件を展示。

主催：開催地美術館・博物館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社ほか。有料。全国4会場（東京，兵庫，広島，京都）。会期：12年1月2日～7月17日。入場者12万9,177人（兵庫，広島，京都）。

(19) 「ザ・タワー～都市と塔のものがたり～」

東京スカイツリーの開業と，大阪を代表する塔である通天閣の開業100周年を記念して開催した。

主催：開催地博物館，読売新聞社，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社。有料。全国2会場（東京，大阪）。会期：12年2月21日～7月16日。入場者7万8,085人。

(20) 特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」

“東洋美術の殿堂”と称されるアメリカ・ボストン美術館の日本美術コレクションから，その粋92点を展示した。

主催：開催地博物館，ボストン美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社ほか。有料。全国4会場（東京，愛知，福岡，大阪）。会期：12年3月20日～13年6月16日。入場者104万2,099人（東京，愛知，福岡）。

(21) 「第14回 国際バラとガーデニングショウ」

メインテーマを「魅惑のバラできれいになる」とし，天使の名を冠した愛らしいバラを集めた「ローズアベニュー」を展示した。

主催：国際バラとガーデニングショウ組織委員会（毎日新聞社，NHK，スポーツニッポン新聞社）。有料。西武ドーム。会期：12年5月12～20日。入場者23万7,672人。

(22) 「第59回日本伝統工芸展」

優れた日本の伝統工芸を現代に継承しつつ，今日の生活に即した新しい作品を築き上げることを目的に毎年開催している。

主催：社団法人日本工芸会，開催地NHK放送局，朝日新聞社，文化庁（東京展のみ），開催地教育委員会など。一部有料。全国12会場（東京，愛知，京都，大阪，石川，宮城，岡山，島根，香川，福岡，愛媛，広島）。会期：12年9月19日～13年3月17日。入場者24万8,595人。

(23) 「東京国際キルトフェスティバル 布と針と糸の祭典2013」

特集企画「ふたりの婦人の物語」は，アメリカの絵本作家ターシャ・テューダーとイギリスの児童文学者ルーシー・ボストンの作品を展示した。

主催：東京国際キルトフェスティバル実行委員会（NHK、読売新聞社、東京国際キルトフェスティバル組織委員会）。有料。東京ドーム。会期：13年1月24～30日。入場者23万2,304人。

(24)「世界らん展日本大賞2013」

「都会の真中の楽園」をテーマに、世界20の国・地域からおよそ3,000種・10万株の蘭が展覧された。

主催：世界らん展日本大賞実行委員会（読売新聞社、NHK、世界らん展組織委員会）。有料。東京ドーム。会期：13年2月16～24日。入場者17万8,947人。

VI. 音楽・伝統芸能イベント

(1) NHK音楽祭2012

10年目を迎えた「NHK音楽祭」。12年は「世界のマエストロ輝ける音楽界の至宝」をテーマに実施した。以下、すべてNHKホール。有料公演。

①10月22日、ドレスデン国立管弦楽団
指揮：クリスティアン・ティーレマン、曲目：ブラームス／交響曲第3番へ長調作品90、交響曲第1番ハ短調作品68ほか。入場者3,161人。

②10月29日、NHK交響楽団
指揮：ロリン・マゼール、ピアノ：アリス・紗良・オット、曲目：グリーグ／ピアノ協奏曲イ短調作品16、チャイコフスキー／交響曲第4番ハ短調作品36ほか。入場者3,116人。

③11月15日、マリンスキー劇場管弦楽団
指揮：ワレリー・ゲルギエフ、バイオリン：レオニダス・カヴァコス、シベリウス／バイオリン協奏曲ニ短調作品47、プロコフィエフ／交響曲第5番変ロ長調作品100ほか。入場者2,537人。

(2) 第39回NHK古典芸能鑑賞会

10月28日、NHKホール。有料公演。

- ①箏曲「春の海幻想」
箏：砂崎知子、尺八：三橋貴風ほか。
- ②舞踊「茨木」長唄囃子連中
花柳壽輔、藤間勘右衛門、花柳基、花柳輔太郎、花柳翫一、秋山悠介ほか。
- ③歌舞伎 艶容女舞衣「酒屋」
坂田藤十郎、坂東彌十郎、坂東竹三郎、中村虎之助、黒川胡桃、中村寿治郎、中村扇雀ほか。
入場者1,324人。

(3) NHK交響楽団演奏会地方公演

北海道公演／8月23日旭川市、8月24日札幌市、8月25日帯広市、8月26日釧路市、指揮：尾高忠明、ピアノ：小山実稚恵、曲目：チャイコフスキー

ー／ピアノ協奏曲第1番変ロ短調作品23、交響曲第5番ホ短調作品64ほか。入場者5,992人（4会場）。有料公演。

大阪公演／12月17日大阪市、NHK大阪ホール、指揮：シャルル・デュトワ、ピアノ：児玉桃、曲目：サン・サーンス／ピアノ協奏曲第2番ト短調作品22、リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」作品35ほか。入場者1,178人。有料公演。

東海北陸公演／13年1月13日浜松市、2月1日岐阜市、2月2日金沢市、2月3日富山市、指揮：下野竜也、ピアノ：インゴルフ・ヴンダー、曲目：ショパン／ピアノ協奏曲第1番ホ短調作品11、ブラームス／交響曲第2番ニ長調作品73。入場者6,741人（4会場）。有料公演。

(4) 第81回日本音楽コンクール

毎日新聞社と共催。各部門予選・本選を経て入賞者を決定。本選会は10月23～28日、東京オペラシティコンサートホール。入場者3,850人（本選会）。本選各部門の第1位は次のとおり。ピアノ部門：反田恭平（桐朋女子高〈男女共学〉3年）、務川慧悟（東京芸大1年）、バイオリン部門：会田莉凡（桐朋学園大4年）、声楽部門：藤木大地（ウィーン国立音大大学院）、クラリネット部門：川上一道（山形交響楽団団員）、トランペット部門：篠崎孝（大阪フィルハーモニー交響楽団団員）、作曲部門：平川加恵（東京芸大大学院）。

(5) 第56回NHKニューイヤーオペラコンサート

1月3日、NHKホール。有料公演。

ソプラノ：江口順子、大村博美、木下美穂子、小林沙羅、砂川涼子、高橋薫子、中嶋彰子、並河寿美、平井香織、森麻季、メゾ・ソプラノ：金子美香、清水華澄、田村由貴絵、林美智子、平館直子、藤村実穂子、増田弥生、テノール：大澤一彰、福井敬、水口聡、村上敏明、望月哲也、バリトン：黒田博、堀内康雄、森口賢二、バス：久保田真澄、妻屋秀和、特別出演：桂文枝、パイプオルガン：井上圭子、合唱：新国立劇場合唱団、二期会合唱団、藤原歌劇団合唱団、管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団、指揮：下野竜也。入場者2,917人。

(6) NHKバレエの饗宴2013

日本を代表するバレエ団とバレエダンサーが一堂に会する公演。3月16日、NHKホール。有料公演。①「コンチェルト」、出演：小林紀子バレエ・シアター、鳥添亮子ほか、演奏：菊池洋子（ピアノ）、②「ドニゼッティ・パ・ド・ドゥ」、橋本清香、木本全優、③「春の祭典」、出演：東京バレ

エ団、宮本祐宜、吉岡美佳ほか、④「ラプソディ」からパ・ド・ドゥ、出演：吉田都、ロバート・テューズリー、演奏：菊池洋子（ピアノ）、⑤「コッペリア」第3幕、出演：東京シティ・バレエ団、志賀育恵、キム・セジョンほか、⑥「白鳥の湖」から「黒鳥のパ・ド・ドゥ」、出演：中村祥子、ヴィスラウ・デュデック、指揮：大井剛史、管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団。入場者3,082人。

(7) 東京JAZZ2012

9月7～9日、東京国際フォーラムほか。有料公演。出演：TAKE6、ベン・E. キング、バート・バカラック、小曾根真、ジョー・サンプル、バルカン・ビート・ボックス、タワー・オブ・パワー、RUFUS featuring スガシカオ、エスペランサ・スポルディング、カシオペア3rd、ポップ・ジェームス・クインテット、松田聖子、大江千里、奥田弦トリオほか。入場者2万8,239人。

Ⅶ. スポーツイベント

(1) ラジオ体操・みんなの体操会

かんぽ生命保険、全国ラジオ体操連盟との共催。

①夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会

7月20日～8月31日、全国43会場を実施し、ラジオ第1で生放送した。このうち、7月22日は札幌市で「1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭」として実施した。参加者7万3,331人。

②特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会

5月27日、6月10・17日、7月1・8日、9月2・17・30日、10月21日、全国9会場を実施し、ラジオ第1で生放送した。参加者1万3,721人。

(2) 2012NHK杯国際フィギュアスケート競技大会（第34回大会）

日本スケート連盟主催、NHK共催により11月23～25日、宮城セキスイハイムスーパーアリーナ（宮城県利府町）で実施した。男子シングルは地元・仙台市出身の羽生結弦（日本）、女子シングルは浅田真央（日本）が優勝。参加選手は9か国・49人。入場者1万5,664人。

関連イベントとして、プロジェクトマッピングを用い、東日本大震災で国内外から寄せられた多くの支援に感謝の気持ちを表現する「ありがとうスケーティング」を実施した。

(3) 天皇盃 第18回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

日本陸上競技連盟の主催、中国新聞、NHKの共催で13年1月20日に実施した。平和記念公園前

をスタート・フィニッシュとする7区間48kmコース。兵庫県チームが連続優勝。観覧者数33万人。広島平和記念公園に設置した大型ハイビジョンモニターで中継映像を公開した。広島放送局では「駅伝ふるさとひろば」を2日間実施した。

(4) 皇后盃 第31回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

日本陸上競技連盟の主催、京都新聞、NHKの共催で13年1月13日に実施した。京都市西京極総合運動公園陸上競技場をスタート・フィニッシュとする9区間日本陸連公認マラソンコース。神奈川県チームが優勝。観覧者数31万5,000人。競技場に設置した大型ハイビジョンモニターで中継映像を公開した。ほかに『連続テレビ小説～純と愛』出演者によるトークショーや少女ミニ駅伝を実施した。

(5) 第68回びわ湖毎日マラソン大会

日本陸上競技連盟、毎日新聞社、滋賀県、滋賀県教育委員会、大津市、大津市教育委員会の主催、NHKの共催で13年3月3日に実施した。皇子山陸上競技場をスタート・フィニッシュとする日本陸連公認コース。ピンセント・キブルト（ケニア）が優勝。日本人トップは藤原正和（4位）。観覧者数21万8,000人。競技場に設置した大型ハイビジョンモニターで中継映像を公開したほか、「びわ湖環境ふれあいテント村」を展開した。

(6) 第14回長野オリンピック記念長野マラソン大会

日本オリンピック委員会、日本陸上競技連盟、長野県、長野市、信濃毎日新聞社の主催、NHKの共催で12年4月15日に実施した。長野運動公園をスタートし、長野オリンピックスタジアムをフィニッシュとするコース。男子はフランス・キビワット（ケニア）、女子はポーリーヌ・ワングイ（ケニア）が優勝。出場選手数8,769人。観覧者数は25万人。「NHK長野放送局ファミリーステーション」を展開した。

(7) オープンゴルフ選手権競技

日本ゴルフ協会の主催、NHKの共催で、男子・女子・シニアの3大会を実施した。会場に設置した大型ハイビジョンで中継映像を公開した。

①第45回日本女子オープンゴルフ選手権競技

9月27～30日、横浜カントリークラブ・西コース（神奈川県横浜市）で実施した。フォン・シャンシャン（中国）が優勝。入場者3万4,517人。

②第77回日本オープンゴルフ選手権競技

10月11～14日、那覇ゴルフ倶楽部（沖縄県八重瀬町）で実施した。久保谷健一（日本）が優勝。

入場者1万6,867人。

③第22回日本シニアオープンゴルフ選手権競技

10月25～28日、東名古屋カントリークラブ・西コース（愛知県豊田市）で実施した。フランキー・ミノザ（フィリピン）が優勝。入場者5,351人。

（8）第92回天皇杯全日本サッカー選手権大会

日本サッカー協会、日本プロサッカーリーグの主催、NHKおよび共同通信社の共催で実施した。都道府県代表47チームとシード41チーム（J1-18, J2-22, JFL-1）の88チームで12年9月1日～13年1月1日を実施。元日、国立競技場での決勝戦（入場者4万6,480人）では、柏レイソルが初優勝。大会を通じての総入場者34万3,593人。

（9）各都道府県サッカー選手権大会

45都道府県大会を各都道府県サッカー協会が主催し、NHKは主催または共催で実施した。各都道府県優勝チームは天皇杯の各都道府県代表として出場。

（10）第49回全国大学ラグビーフットボール選手権大会 および 第50回日本ラグビーフットボール選手権大会

大学選手権、日本選手権ともに、日本ラグビーフットボール協会が主催、NHKが共催で実施した。

大学選手権は12年11月18日～13年1月13日を実施。決勝戦は国立競技場で行われ、帝京大学が4年連続4回目の優勝。大会を通じての総入場者13万1,001人。

日本選手権は13年2月2～24日を実施。決勝戦は国立競技場で行われ、サントリーサンゴリアスが3年連続6回目の優勝。大会を通じての総入場者5万4,720人。

（11）JAPAN CUP 2012 チアリーダーの日本選手権大会

日本チアリーダー協会の主催、NHKの共催で8月24～26日、国立代々木競技場・第1体育館で実施した。211チーム3,249人が参加。優勝は、〔中学校部門〕梅花中学校（大阪府）〔高等学校部門〕箕面自由学園高等学校（大阪府）〔大学部門〕梅花女子大学（大分県）〔社会人部門〕クラブチームツイスターズA（東京都）。入場者数2万2,323人。

（12）NHKスポーツパーク

NHK解説者や一流の講師によるスポーツ教室とトークショー等を組み合わせた家族で楽しめる総合的なスポーツイベント。「松岡修造のテニスパーク」を全国3会場で実施した。参加者2,128人。

（13）NHKジュニアスポーツ教室

野球、サッカー、バレーボール、水泳、バスケットボール、陸上、剣道の各競技種目を一流講師が全国16会場で指導した。参加者2,272人。

Ⅷ. 東日本大震災復興支援イベント

（1）NHK被災地応援キャラバン

東日本大震災の復興支援として、子どもたちを元気づけるイベントキャラバンを11年度に引き続き実施した。「忍たま乱太郎」「おじゃる丸」「ドーもくん」「ムテ吉（ポコポッテイト）」の4種類のキャラクターショーを実施した。青森県内で3会場3公演。岩手県で16会場16公演。宮城県で23会場23公演。福島県で61会場61公演。山形県で1会場1公演。総参加者2万4,590人。

（2）NHK公開復興サポート 明日へ

被災地に赴き、日頃苦勞している被災者に笑顔になってもらうため、幅広い番組・イベントを短期間に集中して実施した。

福島県福島市では、こむこむを会場に1月26・27日に5番組を収録した。来場者735人。

宮城県仙台市では、東北大学川内キャンパスを会場に2月11日に22番組・39イベントを実施。来場者5,392人。

Ⅸ. 会館公開・展示

1. NHKスタジオパーク

前身は1965年開設の「見学者コース」。85年に「NHK展示プラザ」と名称変更し、その後、95年3月22日、放送開始70周年を記念して「NHKスタジオパーク」と改称し、リニューアルオープンした。00年3月には「放送75周年事業」の一環として、より参加感のある新コーナーを設置した。さらに、12月にはBSデジタル放送の開始に合わせて「BSデジタルタウン」を設置し、03年12月には、地上デジタル放送の開始に合わせて「BSデジタルタウン」を拡充し、「デジタル放送ひろば」とした。

04年12月には「パークギャラリー」「スタジオショップ」を全面改修、07年6月に総入場者数1,000万人を達成した。11年には、放送の完全デジタル化に合わせて展示コーナーを一新するため、4月から約半年間、全館休館とし、10月10日にリニューアルオープンした。新生スタジオパー

クでは、次世代テレビ「スーパーハイビジョン」の上映設備をはじめ、番組制作体験や放送の舞台裏に触れることができるコーナーを拡充した。11年10月のリニューアルオープンから13年3月までの入場者は85万3,112人。

【リニューアル後の主な展示内容】

①スーパーハイビジョン

360インチ大画面の臨場感あふれる超高精細映像と22.2chの立体音響を備えた次世代テレビ。

②CR-350スタジオ/3Dシアター

ラジオの公開番組とNHKオリジナルの3D映像の上映。

③アニメファクトリー

アフレコ体験やアニメの制作過程を映像や資料で紹介。

④クリエイティブラボ

来場者が映像と音を編集、オリジナル番組の制作を体験。

⑤スタジオパークNEWS

アナウンサーやカメラマン体験をしながら、ニュース番組の制作に挑戦。

⑥CT-450スタジオ

『スタジオパークからこんにちは』、『ゆうどきネットワーク』、『土曜スタジオパーク』、『日曜バラエティー』などの番組を公開。

⑦ネイチャーカメラマン

『ダーウィンが来た!』など自然番組の撮影に使う特殊カメラの操作を体験。

この他、レストランやショップなどがある。

所要時間 約1時間

開館時間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）

休館日 原則として毎月第3月曜日（祝日・振替休日と重なる場合は、その翌日）
※休館日は変更あり

入場料 個人 200円（団体・20人以上は150円）
※高校生以下および18歳未満、ならびに65歳以上無料

2. みんなの広場 ふれあいホール

「みんなの広場 ふれあいホール」では、さまざまな公開番組やイベントなどを開催している。また、06年6月からは、3階の展示スペースを「ふれあいホールギャラリー」としてリニューアルし、“市民に開かれた文化発信スペース”として一般貸し出し（有料）を開始した。また、放送セ

ンターの番組公開ライブラリーとして3階にアーカイブスを併設している。12年度は、ギャラリーとアーカイブス合わせて3万2,789人の利用があった。

開館時間 午前10:00～午後6:00

入場料 無料

3. NHK放送博物館

“発信・発見・感動のあるミュージアム”として、12年度も積極的・意欲的に事業展開を行った。幅広い年代層にわたる入館者の確保・増加を図りながら、視聴者とNHKを結ぶ最前線としての重要な役割を果たしている。積極的に事業展開した結果、入館者数は11万4,001人（歴代8位）となった。

放送博物館の業務運営の基本は、放送の歴史にとって貴重な資料（放送文化財）の計画的な収集、分類、分析、保存、展示等であり、これらの上に立って行う事業展開の2本の大きな柱として、「魅力ある企画展示」と「愛宕山ホールにおけるイベント」がある。

企画展示では、「久保田万太郎と愛宕山」「こんにちは ふるさと・地域放送局のちから～NHK〇〇（放送局）」「新・三銃士の世界～人形劇の歴史」「テレビ60年 テレビが始まった日」「テレビ60年 カラー放送の時代」「見つめなおそう日本～日本の世界遺産」「テレビ60年 衛星、デジタル、そして未来へ」「市川森一が遺したもの」「あたご、咲く」など研究調査の蓄積や放送現場等との連携に立脚した多彩な展示を行い、内外から注目された。

イベントでは、地域からの発信の先鞭をつけた「こんにちは ふるさと・地域放送局のちからイベントデー〇〇放送局の日」をはじめ、「愛宕山文化講座」「放送記念日文化講演会」「放送人の世界～人と作品」「大河ドラマをめぐる人たち」「愛宕山コンサート」「愛宕山講談会」「愛宕山俳句の会」「新みんなの健康教室」「中高生のための放送講座」「工作教室」ほか魅力あるラインナップで、入館者の期待に応えた。

こうした結果、従来比較的少なかった若いカップル、30～40代の家族連れなども多数訪れるようになり、入館者層の幅が幼児から高齢者にわたって広がってきている。

また、産業文化博物館コンソーシアム（COMIC）、港区ミュージアムネットワークなど博物館相互の連携を密にしながら地域文化の中核としての活動強化に努めている。加えて、映像・活字・

電子系のメディアを通じての戦略的なPRにも積極的に取り組んでいる。

(1) 資料の収集・保存

放送史上貴重な資料(図書・文献、台本、機器など)の収集を行った。また、資料データベースの充実を図った。

(2) 展示・企画展

「久保田万太郎と愛宕山」(1~4月)、「こんにちは ふるさと・地域放送局のちから~NHK〇〇(放送局)」(3~4月, 宇都宮局)(5~6月, 神戸局)(7~9月, 名古屋局)(9~11月, 大分局)(11~1月, 松江局)(1~3月, 松山局)、「新・三銃士の世界~人形劇の歴史」(4~8月)、「テレビ60年 テレビが始まった日」(4~7月)、「テレビ60年 カラー放送の時代」(7~10月)、「見つめなおそう日本~日本の世界遺産」(9~11月)、「テレビ60年 衛星、デジタル、そして未来へ」(11~3月)、「市川森一が遺したもの」(11~2月)、「あたご、咲く」(3~4月)を実施した。

(3) 普及業務

① イベント

「こんにちは ふるさとイベントデー」「愛宕山文化講座(吉永みち子、浅野加寿子、青柳正規、樋野興夫の各氏)」「放送記念日文化講演会(山田太一)」「放送人の世界~人と作品(石橋冠)」「大河ドラマをめぐる人たち『八重の桜』」「藤山一郎を歌う」「愛宕山コンサート」「菊田一夫の世界」「愛宕山講談会」「愛宕山俳句の会」「新みんなの健康教室」「中高生のための放送講座」「俳句自然塾」「工作教室」などを開催した。

② NHK番組を見る会

『ドラマ特集 聖徳太子』『NHKスペシャル 大英博物館』『ETV特集 戦争とラジオ』『ETV特集 NHK映像ファイル「新藤兼人の対話ドキュメント 歳月への旅」』『この人「山田五十鈴ショー」』『日本・空の散歩~大分県』『ハイビジョン日本大百科 華麗なる世界遺産』『秋 紅葉列島』『小さな旅~東京編』『小さな旅~神奈川編』『銀河テレビ小説 黄色い涙』『新・坊ちゃん』『NHK特集 永平寺』『さわやか自然百景スペシャル 日本列島絶景の旅』『特集ドラマ 風の盆から』『特集ドラマ 蝶々さん~最後の武士の娘~』などのほか、落語などを上映した。

③ 移動放送博物館

名古屋局(8月7~11日)、奈良局(9月15~16日)、大分局(10月6~7日)、佐賀局(10月20~21日)、京都局(3月16~17日)、徳島局(3月23日)で開催し、合計で2万6,313人が来場した。

④ 中高生のための放送講座

7月31日、8月1日実施。13組43人が参加した。

⑤ 学芸員実習

8月30日~9月5日の7日間実施。8大学10人が参加した。

NHKの情報公開

(1) NHKの情報公開の特色

01年7月から開始したNHKの情報公開の主な特色は、次の3点である。

①国や地方自治体のように法律・条例によって義務づけられて行うのではなく、NHKが自主的に実施するものである。放送法の精神や言論・報道機関としての性格に照らし、NHKの自主・自律性に配慮した結果である。

②放送番組や放送番組の編集に関する情報を記録した文書については、情報開示の求めの対象外としている。NHKが公共放送としての使命を果たしていくためには、放送番組編集の自由の確保は不可欠である。もし番組そのものや、番組素材、その制作・編成関係の文書を開示すると、自由な番組編集に支障が生じ、ひいては公共放送としての使命が果たせなくなることから、情報開示の求めの対象外とした。そのうえで、可能な範囲で関係情報の提供に努めていく。

③NHKの不開示等の判断に対して、第三者機関による公正・客観的なチェックの仕組みを整えている。5人の有識者で構成される「NHK情報公開・個人情報保護審議委員会」が、視聴者からの再検討の求めがあった際に、委員会としての意見をNHKに述べる。NHKは、その意見を尊重して最終判断を行う。

(2) NHKの情報公開の仕組み

NHKの情報公開は、基本的枠組みを定めた「NHK情報公開基準」(00年12月制定)と、それをさらに具体化した「NHK情報公開規程」(01年6月制定)に基づいて取り進めている。この情報公開規程は、情報公開基準に基づき情報公開を実施していくために必要な事項を定めている。主な内容は次のとおり。

① 開示の求めの対象となる文書

NHKの役職員が業務上共用するものとして保有している文書(フロッピーディスク・サーバー等に電磁的に記録されたものを含む)が、開示の求めの対象となる。

ただし、放送番組編集の自由を確保する観点等から、次のものについては対象外となる。

- (i) 放送番組および放送番組の編集に関する情報を記録したもの（放送番組の企画、取材、収録等について記録した文書など。ハードディスク・DVD等を含む）。
- (ii) 書籍、雑誌等不特定多数の人に販売することを目的として発行されるもの。
- (iii) 歴史的もしくは文化的な資料または学術研究用の資料としてNHK放送博物館等において特別の管理がされているもの。

②開示の求めのできる者

NHKの放送の視聴者。

③受付場所・方法

全国の放送局・支局に、日本語で記入した申込書を持参または郵送で提出する。

④開示できない文書

開示の求めの対象となる文書は、原則として開示する。

ただし、次の情報（不開示情報）が記載されている場合を除く。

- (i) NHKの権利利益、地位、事業活動に支障を及ぼすおそれがあるもの。
- (ii) NHKの審議、検討、協議が円滑に行われることを阻害するおそれがあるもの。
- (iii) 特定の個人を識別できるものや個人の権利利益を害するおそれがあるもの。
- (iv) NHK以外の法人、団体、個人事業主の権利等を害するおそれがあるもの。
- (v) NHKの保安に支障を及ぼすおそれがあるもの。
- (vi) 契約によりNHKが守秘義務を課せられているもの。

⑤開示・不開示等の判断までの期間

申込書を受け付けた翌日から30日以内に開示・不開示等を判断する。判断結果は書面により連絡する。

⑥開示の実施方法

視聴者が開示の連絡を受けた日から2週間以内に、閲覧またはコピーを提供する（電磁的に記録されたものについては、プリントアウトし、閲覧またはコピーを提供する）。

⑦費用

閲覧のためにコピーやプリントアウトが必要な場合も含め、次の費用は視聴者負担となる。

- ・ 白黒コピー : 1枚につき10円
- ・ カラーコピー : 1枚につき50円
- ・ 郵送料 : 実費

⑧再検討の求め

一部開示・不開示の判断結果について、視聴者

は2週間以内に「再検討の求め」ができる。

その場合NHKは、NHK情報公開・個人情報保護審議委員会に諮問し、その意見を尊重して開示・不開示等の最終的な判断を行い、直ちに書面により視聴者に連絡する。

⑨実施状況の公表

実施状況を適宜、公表する（毎月、インターネットホームページで公表）。

(3)「開示の求め」

①受付状況

12年度は、全国の放送局・支局において、111人の視聴者による768件の開示の求めがあった。

②検討結果

718件について検討を終えた。(表1)

表1 「開示の求め」検討結果

判断結果	件数	備考
対象外	60件	うち、11件で情報を提供
開示	447件 (A)	うち、一部開示130件
不開示	211件 (B)	うち、文書不存在180件

③開示率 (A / (A+B))

718件についての開示率は68%、開始当初の01年度からの開示率は68%となっている。

④「開示の求め」の内容

12年度に受け付けた768件の内訳は次のとおりとなっている。(表2)

表2 「開示の求め」の内訳

分野	件数	割合
経営一般	124件	16%
放送	86件	11%
営業	254件	33%
技術	10件	1%
広報・事業	79件	10%
総務・経理	205件	27%
その他	10件	1%

(4) NHK情報公開・個人情報保護審議委員会

NHK情報公開・個人情報保護審議委員会は、「開示の求め」についてのNHKの一部開示・不開示の判断に対して「再検討の求め」があった場合に、審議を行い、NHKに意見を述べる第三者機関である。

①委員

NHK情報公開・個人情報保護審議委員会の委員は、5人以内で、経営委員会の同意を得て会長が委嘱する。任期は2年、再任は可である。12年

度末現在、次の方々を委員を委嘱している。

- 委員 長 大島 崇志 氏 (弁護士)
 委員長代行 佐藤 ギン子氏
 (助女性労働協会元名誉会長)
- 委員 宮内 忍 氏 (公認会計士)
 委員 米倉 久邦 氏
 (元共同通信社論説委員長)
- 委員 齋藤 誠 氏
 (東京大学大学院法学政治学研究
 科教授)

②開催回数

12年度、NHK情報公開・個人情報保護審議委員会は、21回開催された。

(5)「再検討の求め」

①受付状況

12年度は、NHKが一部開示・不開示の判断をしたもののうち、219件について再検討の求めを受け付けた。このうち1件は諮問前に取り下げられ、9件は諮問せず開示、6件は不受理とする判断をした。

②審議結果

12年度、NHK情報公開・個人情報保護審議委員会は、前年度からの継続案件も含め、115件について審議し、113件の答申を行った。(表3)

NHKは、すべての案件について、審議委員会の答申どおりの最終判断を行った。

表3 12年度審議結果

審議結果	件数
一部開示の範囲を広げるか、開示が妥当	0件
不開示ではなく一部開示・開示が妥当	5件
当初判断どおり一部開示・不開示が妥当	108件

NHKの個人情報保護

(1) 個人情報保護法

①個人情報保護法の施行

05年度から「個人情報の保護に関する法律」(個人情報保護法。以下「法律」という)が全面施行され、NHKもこの法律が定める「個人情報取扱事業者」に該当することから、さまざまな法律上の義務が課され、個人情報の取り扱いを適正に行うことが求められている。

②法律の義務の適用除外

この法律が成立する過程で、個人情報保護に関

する「利用目的による制限」「適正な取得」「正確性の確保」「透明性の確保」といった基本原則が、「表現の自由」「報道・取材の自由」などの基本的人権を制約するおそれがあるとの指摘が、メディアを中心になされた。

このため、法律は、報道機関が報道目的で個人情報を取り扱う場合、著述を業とする者が著述目的で個人情報を取り扱う場合などは、個人情報取扱事業者としての義務の適用を除外した。その一方で、義務の適用が除外される場合については、事業者が自主的に個人情報の適正な取り扱いについての措置を講じ、それを公表するよう努めることを求めた。

(2) NHKの個人情報保護の取り組み

①NHKの取り組み

ア NHK個人情報保護方針

NHKにおける個人情報保護に関する最上位の規程で、法律上の義務が適用除外となる報道・著述・学術研究分野を含め、NHK内の個人情報全般の取扱いについて宣言的に定めている。

イ NHK個人情報保護規程

法律上の義務の適用を受ける分野(営業・事務分野等)を対象に、実務上の手続きを中心に定めている。

視聴者本人から自己情報の開示等の求めが出された場合、原則として視聴者が求める措置をとることとなるが、開示するとNHKの業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合等は、求められた措置をとらなくてもよいとされている。

このような場合の救済策として、法律上の要請はないが、NHKとして自主的に、視聴者からの「再検討の求め」を受け付け、第三者機関「NHK情報公開・個人情報保護審議委員会」において審議してもらうこととしている。

ウ 報道・著述・学術研究分野に係る個人情報保護規程

法律上の義務が適用除外となる報道分野等について、自主的に、安全管理や苦情への対応について定めている。

②NHKにおける個人情報の管理・責任体制

上記規程に基づき、NHKにおける個人情報の管理については、副会長がこれを統括し(報道分野等については放送総局長)、各部局においては、各部局長が全責任をもって管理することとなっている。

しかしながら、12年度においては、個人情報の漏洩や紛失が合わせて12件発生した。

これらの事案はいずれもホームページで公表するなどしているが、NHKとして、今後はこのような事態が起きないように、個人情報の取り扱いについては、くれぐれも細心の注意を払い、その適切な取り扱いに努めていく。

③個人情報の開示等の求めへの対応状況

12年度に視聴者本人から出された個人情報の開示等の求めは、開示の求めが16件あり、検討結果は次のとおりである。

個人情報の開示等の求めへの対応

検討結果	件数
開示	9件
一部開示	2件
不開示	2件
検討中	3件

④「個人情報 再検討の求め」の審議状況

12年度に受け付けた個人情報に関する再検討の求めは3件であり、審議委員会は、NHKが不開示とした当初判断を妥当とした。NHKはその意見どおり最終判断を行った。

広 報

I. 経営広報

1. 会長会見とマスコミ対応

会長定例記者会見をはじめ、臨時の記者会見、ブリーフィング、個別の取材対応などを通じて、NHKの経営情報をさまざまな形で発信した。

会長定例記者会見は原則月1回。会長と副会長、テーマに応じて関係役員が出席して、NHKや放送業界全体に関わることなどについて説明した。

3か年経営計画の初年度、10月からの受信料値下げについて丁寧に広報した。詳細な内容や受信規約の改定、値下げ後の営業業績などについてきめ細かく情報を発信した。あわせて、値下げに伴う減収を補うためにNHK全体で増収や受信料制度への理解を深める活動に取り組んでいることを伝えた。受信料については、都道府県別の推定世帯支払率について初めて公表したほか、未収世帯や未契約世帯・事業所に対する民事手続きの状況なども適宜伝えた。

経営計画の達成状況を評価・管理するために新たに導入した仕組みについて基本的な考え方や具体的な運用の方法などを分かりやすく広報した。さらに、経営計画では赤字としていた13年度の予

算を収支均衡予算にしたことなど、予算や決算について随時、広報した。

ロンドンオリンピックでは、放送概要、一部の競技で実施したライブストリーミング、スーパーハイビジョン（SHV（8K））によるパブリックビューイング、それにNHKオンデマンドでの配信など、NHKの取り組みを詳細に発信した。加えて、内容を充実させた特設サイトのインターネットサービスについても分かりやすく広報した。

多党による争いとなった衆議院選挙では、開票速報の見どころやネットサービスのほか、政見放送の収録の状況や編成などについても伝えた。

東日本大震災のその後に関しては、被災地が抱えるさまざまな課題に向き合う番組や復興への歩みを支援するイベントを周知するなど、NHKが全局を挙げて取り組んでいることを伝えた。また、震災を受けて対策を進めている放送機能の強化や、津波警報が出された際の伝え方の改善など、災害報道での新たな取り組みについても分かりやすく広報した。

職員の給与制度改革については、新しい制度の具体的な内容や改革を自ら行う意義を、記者会見などを通じて丁寧に伝えた。

前経営委員長の辞任を巡っては、執行部としての受け止めなどを発信した。

◇会長定例記者会見の主な内容

- 4月 11年度の営業業績総括
「渋谷DEども2012」
今後の原発事故関連番組
- 5月 ロンドンオリンピック開・閉会式担当キャスター
NHK放送技術研究所一般公開
「NHK視聴者ふれあい報告書2012」
- 6月 ロンドンオリンピックデータ放送とネット展開
NHKロンドンオリンピック放送テーマソング
第1期営業業績
前経営委員長の辞任受け止め
- 7月 ロンドンオリンピックの開幕に向けて
NHKオンデマンドの新サービス開始3か月
IBC（International Broadcasting Convention）最高賞の受賞
「ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト」
- 9月 ロンドンオリンピック総括 ライブストリーミング実施結果、スーパーハイビジョン

- パブリックビューイング
受信料の値下げと第2期営業業績
- 10月 年度前半の番組総括
受信料値下げの状況と上半期営業業績
都道府県別推計世帯支払率における地域間格差
NHK文化祭2012「第39回日本賞」
- 11月 「NHK歳末・海外たすけあい」
「尊厳の芸術展-The Art of Gaman-」
東京タワーから東京スカイツリーへの送信所移転の見通し
- 12月 第4期営業業績
『第63回NHK紅白歌合戦』
テレビ60年関連企画
「NHK公開復興サポート 明日へ」
衆院選政見放送の放送時間
ラジオ地域放送のインターネット同時配信の認可申請
- 1月 年末年始番組の感想
スカイツリー移転受信確認番組
- 2月 第5期営業業績
「テレビ60年 全国放送意向調査」
「第42回番組技術展」
職員給与費の見直しについて
- 3月 東日本大震災2年にあたって
「第64回日本放送協会放送文化賞」
「NAB2013」でのNHK最新技術展示

2. 国際広報

国際放送やコンテンツの国際展開などNHKの国際業務について視聴者の理解を深めるとともに海外でのNHKのプレゼンスを高めるため、国内外のメディアに情報発信した。

国際放送・NHKワールドTVについては、ニュース・番組の充実を図った13年度の番組編成、日本のポップカルチャーを紹介する番組、ミャンマーでの放送開始、スマートフォンで視聴できるアプリの提供などについて、記者会見やリリースなどを通じて発表した。

国際放送を巡っては、経営委員会や総務省でそれぞれ議論が行われ、また、日本の文化を海外に紹介する「クールジャパン」の官民の取り組みなどが進む中、国際放送やコンテンツの国際展開に対する関心が高まった。NHKワールドTVの現状や課題をテーマにした個別取材、担当理事のインタビューなどの取材に相次いで対応した。

国際コンクールでの番組などの受賞結果についても速やかに広報した。国際エミー賞では、「東

日本大震災 緊急ニュース」のニュース部門、「中学生日記」の子どもシリーズドラマ部門の受賞について報道発表した。

外国メディアへの対応としては、スーパーハイビジョン（SHV（8K））など放送技術の研究・開発や東日本大震災から2年の特集番組、それに国際共同制作による大型番組など、海外で関心が高そうなテーマについて積極的に報道発表し、取材に応じた。

SHVについては、ロンドンオリンピックのパブリックビューイングに合わせて、12年7月から8月にかけて現地で取材会を開催。技師長のインタビューをはじめとする取材対応を行い、NHKの最新の放送技術をイギリスをはじめとするヨーロッパのメディアにアピールした。スーパーハイビジョン（SHV）の技術については、8Kとして海外でも関心が高く、イギリスのBBCやブラジルのTV GloboがNHKを訪れて特集番組の取材を行った。

災害報道、東日本大震災での経験とその後の災害報道の取り組みなどについての取材にも多数応じた。

国際協力の分野では、ABU・アジア太平洋放送連合主催の「ABUロボコン2012香港大会」について現地で広報対応を行った。韓国・ソウルで開かれた「ABU総会」では、副会長がデジタル時代のNHKの取り組みについてプレゼンテーションを実施し、あわせて国内外に報道発表した。

広報資材として、年次活動報告「NHK Annual Report 2012-2013」とPRビデオ「NHK 2012」の英語、中国語、韓国語の3か国語版を制作した。

3. 技術広報

NHKは豊かな放送文化の創造に向け、新たな放送技術の研究や開発、実用化、普及において先導的な役割を果たしている。NHK技術の取り組みについて情報発信した。

岩手、宮城、福島県の3県でアナログテレビ放送が終了。12年4月1日から真の意味でデジタル放送の時代となり、PRの中心は新たなサービスの研究・開発や、放送機能強化、環境経営などにシフトした。

12年度は、ロンドンオリンピックなどの機会を活用し、スーパーハイビジョン（SHV（8K））やハイブリッドキャストなどについて、積極的に広報した。

（1）ロンドンオリンピックでの取り組み

日本、イギリス、アメリカで実施したSHV

(8K)によるパブリックビューイングについて会長定例記者会見で発表。国内会場での取材会や、新聞や雑誌、情報サイトの掲載記事、新聞や雑誌の広告、スポットなど放送による周知を行った。イギリスの上映会場では、BBCとの共同取材会やNHK単独取材会などを実施し、海外会場への2万人の来場に貢献するとともに、海外の放送関係者やオリンピック関係者にSHV(8K)の魅力を伝えた。

また、シンクロナイズドスイミングの国際映像を提供したNHK開発のツインズカムについて積極的にPRし、話題を呼んだ。

オリンピック関連イベント会場では、オリンピック放送の進化を支える技術開発をパネル展示し、東京大会でのカラー放送やソウル大会でのハイビジョン中継など、NHKの世界初の試みを紹介した。

(2) スカイツリー移転に向けた取り組み

東京スカイツリーへの送信所移転にあたり、民放を含めた6社で受信確認テストの放送スケジュールや東京スカイツリー移行推進センターの連絡先の周知を行った。合同記者会見や資料配布に加え、NHK単独での周知にも力を入れた。

(3) 放送技術の研究・開発の広報

放送技術の開発においてNHKが担っている先導的な役割について、機会を捉えて国内外にPRした。

技研公開については、会長定例記者会見での機材展示やプレスプレビューを実施した。そのほか、番組技術展、NHK技術研究所のIBC国際栄誉賞の受賞、SHV映像フォーマット国際規格認定などについて広報した。

環境経営への取り組みとして、菖蒲久喜のメガソーラーについて、報道発表と記者向けの現地見学会を実施した。また、放送機能強化への取り組みとして、太陽光や風力などの自然エネルギーで運用可能なロボットカメラの開発について広報した。

(4) イベントを通じた技術広報

『紅白歌合戦』と「東京ガールズコレクション」で実施したSHV(8K)のパブリックビューイング、CEATEC JAPANでのNHK展示、InterBEE(国際放送機器展)について広報し、来場者の拡大を図った。

(5) 印刷物やホームページでの広報

NHKの番組制作、報道、番組送出、送信・受信技術、研究開発などにおけるNHKの技術の取り組みを紹介する「NHKの放送技術2013」を発

行した。また、ホームページ「NHKデジタル」をリニューアルし、デジタル受信機のネット接続などの周知を行うとともに、衛星放送の受信拡大を促進した。

SHV(8K)のパンフレットとチラシを作成し、ケーブル技術ショーやパブリックビューイング会場で配布するなどした。

(6) 報道発表

- ・ラウドネスによる音声レベル管理の導入(4.13)
- ・145インチスーパーハイビジョン用プラズマディスプレイを開発～世界初の自発光型ディスプレイによる高臨場感映像～(4.27)
- ・第66回NHK放送技術研究所の一般公開について～“わくわくが、あふれだす。” 5月24日(木)から～(5.10)
- ・Hybridcast受信機を開発～放送通信連携サービスの実現に向けて～(5.10)
- ・やさしい日本語への書き換え支援システムを開発～やさしい日本語のニュースサービス提供に向けて～(5.10)
- ・スーパーハイビジョン用小型カメラヘッドを開発～ハイビジョンカメラと同等のサイズを実現～(5.10)
- ・地上波によるスーパーハイビジョンの伝送実験に成功!(5.15)
- ・時空間トリス符号化MIMOシステムを開発～ロードレース中継の高度化を実現する伝送システム～(5.17)
- ・高フレームレートSHVプロジェクトを開発～毎秒120フレームで、動きの速い映像も鮮明に表示～(5.17)
- ・電子ホログラフィー用デバイスを開発～世界最小の画素ピッチで、視域角の広い立体動画表示が可能に(5.18)
- ・日本で初めて「IBC国際栄誉賞」を受賞～放送技術の発展に寄与する研究開発に対して～(7.5)
- ・ロンドンオリンピックが「ツインズカム」を採用～シンクロナイズドスイミングの中継に幻想的な映像効果～(7.5)
- ・スーパーハイビジョン ロンドンオリンピックパブリックビューイング関連イベントの実施について(7.5)
- ・スーパーハイビジョン ロンドンオリンピックパブリックビューイング上映競技について(7.5)
- ・ISDB-T混信局探索装置を開発～希望波を停波させることなく混信局の探索が可能に～

- (7.19)
- ・ 菖蒲久喜ラジオ放送所メガソーラー完成～2メガワット級の太陽光発電システムがフル稼働～(8.6)
- ・ スーパーハイビジョン テレビの国際規格に！～放送の早期実現に向けて大きく前進～(8.23)
- ・ 自然エネルギーのみで動作可能なロボットカメラを開発～太陽光と風力のハイブリッド発電で非常時にも電力を確保～(8.29)
- ・ 消費電力1/3・寿命7倍の有機ELデバイスを開発～フレキシブルディスプレイの実現に向けて～(9.4)
- ・ “CEATEC JAPAN 2012”に出展『新しい放送サービスが変えるライフスタイル～テレビはまだまだ面白くなる～』(9.25)
- ・ 東京スカイツリーへの送信所移転について(11.22)
- ・ スーパーハイビジョンによるNHK紅白歌合戦ライブパブリックビューイングの実施について(12.6)
- ・ 試験放送番組「東京スカイツリー受信確認テスト」について(12.7)
- ・ 「第67回 技研公開」の日程を決定～“期待、見たい、感じたい”をテーマに5月に開催～(1.10)
- ・ 第42回 番組技術展～放送現場のアイデアから生まれる技術を紹介～(1.10)
- ・ 「東京スカイツリー移転に向けた3月の取り組み」について(2.8, 訂正版2.21)
- ・ ケーブルテレビでもスーパーハイビジョンが視聴可能に！～実際のケーブルテレビ施設を使用した伝送実験に成功～(2.19)
- ・ NAB2013でNHKの最新技術を紹介(3.7)
- ・ 「東京スカイツリーへの送信所移転に向けた3月後半の取り組み」について(3.14)
- ・ メガネなし立体テレビ用カメラの画質が向上！カメラのサイズも従来比で約10分の1に～(3.18)

II. 番組広報

1. 放送総局長会見と番組取材会

原則月1回、記者クラブ加盟社を対象に、放送総局長の定例記者会見を行い、NHKの番組広報に努めた。会見には、放送総局長のほか副総局長も出席し、翌月に放送する番組の中からえりすぐ

りの番組の見どころなどを紹介した。さらに、PR映像を上映したり、番組制作者の解説なども交えて、番組の魅力を伝えた。また総局長会見に合わせてテレビ雑誌など記者クラブ以外のメディアに同様の内容を説明した。

番組改編時や夏の特集、年末年始特集については、冊子を発行し、各メディアへ配付するとともに、総局長会見でも内容を詳しく説明した。テレビ情報誌や一般の週刊誌、記者クラブ非加盟社に対しては、別途会見して説明した。

総局長会見以外にも個別番組ごとに、取材会や試写会に精力的に取り組んだ。『大河ドラマ』や『連続テレビ小説』『紅白歌合戦』をはじめとするドラマ番組やエンターテインメント番組、また『NHKスペシャル』や大型特集番組など、そのつど放送予定のお知らせや完成試写会のお知らせなどをマスコミ各社に周知し、出演者やプロデューサーなど制作担当者が出席する会見を開いた。『大河ドラマ～平清盛』では、細かい情報発信を含め105回の会見、取材会などを行った。また、クランイン時に、視聴者と出演者の交流会、放送時の制作担当者などからのツイッター発信、最終話の放送時に視聴者を招いてパブリックビューイングを行うなど、視聴者との直接対話活動も行った。『連続テレビ小説』では、前期の「梅ちゃん先生」が、03年の「こころ」以来、平均視聴率が20%（ビデオリサーチ 関東地区）を超えるなど、大きな支持を得た。また後期の「純と愛」も、個性的なキャラクターと、スピーディーな展開で話題になった。ほかにも、火曜夜の『ドラマ10』、『よる☆ドラ』も話題作が続き、これまでの広報展開と相まって視聴率も好調で、視聴者にこの枠が広く受け入れられた。

『第63回NHK紅白歌合戦』においては、今回のテーマ「歌で 会いたい。」の発表から、「応援隊」「司会者」「出場者」「曲目」「曲順」「審査員」など、決定の節目ごとに記者会見や発表を行い、多彩な広報展開を図った結果、非常に多くの媒体に取り上げられ、放送後も大きな話題になった。

2月1日にテレビ放送60年を迎えるにあたって、さまざまな特別番組を放送した。特に日本テレビとのコラボレーション番組では、日本テレビ広報部と連携して共同記者会見を開くなど、局の枠を超えたPRを展開した。

13年度の新番組では、改定の柱となる土曜夜のファミリーゾーン、夜のニュース番組、語学番組や趣味番組などについて、集中的に取材会を実施した。特に、土曜の夜の『マサカメTV』『伝えて！

ピカッチ』『突撃!アットホーム』では、3番組共同の会見を行うなど、土曜の夜のファミリーゾーンをアピールした。また、ニュースなどの新キャスター、教育番組の出演者、衛星放送番組の新MCなどの発表についても、会見を行い、PRに努めた。

◇放送総局長定例記者会見の主な内容

- 4月 東京スカイツリー特集番組
『NHKスペシャル～シリーズ 被災地の子どもたち』
沖縄 本土復帰40年特集番組
- 5月 ロンドンオリンピック関連番組
『マイケル・サンデルの白熱教室』関連番組
『震災ドキュメント2012』
- 6月 ロンドン五輪 競技放送計画と関連番組について
夏の特集番組
『ユーミンのSUPER WOMAN』
- 7月 ロンドン五輪/競技放送計画とパラリンピックについて
『第44回 思い出のメロディー』
『震災と防災を考える1か月』
- 9月 平成24年度後期番組改定
『NHKスペシャル～メイド・イン・ジャパン』
『梅ちゃん先生～結婚できない男と女スペシャル』
- 10月 アメリカ大統領選挙
『探検バクモン 拡大スペシャル いじめ vs 爆笑問題』
『きょうの料理』放送55年 特別企画
『中谷美紀 日本ノ宝、見ツケマシタ』
- 11月 年末年始特集番組
『テレビ60年』特別企画
『第63回紅白歌合戦』
『大河ドラマ～八重の桜』関連
- 12月 第46回衆議院選挙の放送 総括
テレビ60年～これまでも、これから。～
『ゆく年くる年』
新年注目のスポーツ番組
『Eテレ特集シリーズ～日本人は何を考えたのか』
- 1月 25年度番組改定
『震災から2年』NHKの取り組み
テレビ60年関連企画『ここまで来た!次世代テレビ』
コンフェデレーションズカップ2013

『密着!秋元康2160時間～エンターテインメントは眠らない』

- 2月 3月の震災関連番組
『震災から2年“明日へ”コンサート』
『津波警報変更』への対応
『NHKスペシャル～ロボット革命 人間を超えられるか』
『ザ・プレミアム～大沢たかお 神秘の北極圏』
『探訪・東京地下迷宮』
- 3月 『NHKスペシャル～MEGAQUAKEⅢ巨大地震』
『仕事ハッケン伝』シーズン3スタート
2013アメリカ大リーグ開幕
『BS世界のドキュメンタリー～シリーズオリバー・ストーンが語るもうひとつのアメリカ史』

Ⅲ. 広報制作

視聴者にテレビ・ラジオの放送予定を中心に伝える番組広報。デジタル放送への移行周知をはじめ、公共放送の姿勢を正しく伝える経営広報番組やスポットを制作・放送した。

また、同様にポスターや冊子など印刷物の編集・作成、インターネットや携帯サイト・SNSによる新しい視聴者の獲得などの展開、ネット広告・交通広告などの放送と連動した広報活動を行った。

1. 広報番組

(1) 番組広報

「番組スポット」(地上波2波・週およそ3時間22分 衛星2波・週およそ3時間6分)を中心に、地上・衛星波で、毎日、番組PRを放送した。

『土曜スタジオパーク』(生放送)は、毎回2つの番組からゲストを迎え、出演番組の見どころや舞台裏など、魅力をたっぷり伝えた。またNHKの最新情報やイベントを毎週を発信した。12年度は3回(東京蒲田、大阪、福島県須賀川市)、公開生放送を行い、地域サービスにも努めた。さらに、最新の番組制作情報、経営情報や番組の舞台裏などを紹介する『プレマップ』も随時放送した。

(2) 経営広報

日曜の朝にNHKの経営情報や番組情報を伝える『とっておきサンデー』は、12年度から54分の番組に短縮され、好評だった「あなたのアンコール」がなくなったが、朝の『連続テレビ小説』の

20分ダイジェストを継続して、NHKの最新の番組情報や地域のNHKの取り組みとともに最新の経営情報を紹介している。10月からはテレビとなって初の受信料値下げを広く周知するべく、スポット・クラッチを集中放送。またさまざまなケースを対象に“いくら値下げになるのか？”を細かく解説した「受信料値下げ あなたの場合は？」を放送。さらに『とっておきサンデー』で2度にわたって値下げを特集し、前日（9月30日）には松本会長出演の特別番組をテレビ・ラジオで放送した。

12月の衆議院選挙は東京都知事選との同日選挙になったため、かつてない規模での政見放送の制作・送出となった。2月のテレビ放送開始60周年に向けて、『ミニドラマ～ブラウン・カーン』や、『NHK TV60 オモイデテレビ』『NHK TV60 ミライテレビ』『今日からスタート！テレビ60年感謝祭』などの特番を放送した。そのほか公共放送NHKを広く知ってもらうため、NHK各部局や地域放送局の取り組みを広く紹介した番組『ここに、公共放送』を制作・放送した。

（3）そのほかの番組

8月に開催されたロンドン五輪では、「全力応援」をキャッチコピーに選手出演のスポット、クラッチを集中放送。開催直前には生放送特番『ロンドン五輪完全攻略 みんなで走ろう！クイズマラソン』を、期間中はその日の衛星放送での見どころを伝えるPR番組『BS五輪のミカタ』を連日放送するなど、放送のみならずデータ放送やPCを利用しての新しい時代のオリンピックの楽しみ方を提示した。ヨーロッパサッカー、ウインタースポーツなどでも選手が出演したクラッチなどを放送してPRに努めた。またBSの普及促進にも重点的に取り組んだ。BSのさまざまな番組の魅力を紹介、視聴拡大につなげるPR番組（4月『春のBS渋谷で会いまショー』、9月『秋のBS渋谷で会いまショー』）を放送したほか、3月アイドルグループAKB48のメンバーを中心にした“チームBS”メンバーによる「わたしはBS押し」スポット、クラッチを集中放送した。12月には第10回を迎えた「ミニミニ映像大賞」を番外編も併せて放送した。

2. 広報印刷物や広告などによる取り組み

（1）経営広報関連

①「平成24年度ことしの仕事」を作成、12年度の番組編成方針のほか各部局の事業計画を紹介。全国各局の広報活動で使用。英・中・ハンデル版も

作成し、海外からの視察団や、国際会議などで配付した。

②小学校5年生の社会科で学ぶ「放送局の仕事」の副読本として、放送の仕組みと公共放送の役割を解説した冊子「NHKジュニアブック」（50万部）とDVD「ニュース番組ができるまで」（5,000枚）を作成。全国の放送局を通じ、希望する小学校に配付した。今年度から、学校側の利便性を高めるためDVDも期間を限定した“貸与”ではなく、より利用しやすい“無償配布”に変更した。

③聴覚障害者向けに字幕版DVDを合わせて作成し、全国のろう学校等に配付した。

④10月からの「受信料の値下げ周知」については、オンエアスポットなどと統一のキャッチコピーを用い、広報資材やなどによって丁寧周知した。

（2）番組広報関連

①『大河ドラマ』や『連続テレビ小説』のポスター、リーフレット、メイキングDVD等を作成・配付し、全国の視聴者イベントや営業活動現場で活用した。

②若者世代との接触率向上を図るために隔月発行してきた番組情報冊子「ウォッチ」「ワンダー」を廃止し、より若者に親和性の高いウェブサイトでの展開に移行した。新規に立ち上げた「WONDER web!」は、これまで以上に若年女性層向けの内容と企画にシフトし、更新頻度を上げることで、視聴者層の拡大を目指した。

（3）大型スポーツイベントの広報展開

12年度最大のスポーツイベント、ロンドンオリンピックについては、全放送局が開幕前から“全力応援”の統一キャッチコピーの下、イベントの実施や広報資材の活用で、番組の視聴促進と地域の盛り上げに一丸となって取り組んだ。また、8月に開幕したプレミアリーグ、ブンデスリーグ、セリエAの欧州サッカー中継については、日本人選手の活躍に対する関心の高さに鑑み、観戦リーフレットを作成したほか、広告媒体も活用して視聴促進を図った。このほか、MLB中継等も含め、放送と歩調を合わせてNHKスポーツ中継の魅力を幅広く訴求した。

（4）その他のサービス

12年度番組改定の「放送番組時刻表」を各拠点局別に作成。併せて視覚障害者向けに「点字番組時刻表」「音声CD版 番組時刻表」も作成、全国の盲学校・点字図書館など社会福祉施設に配付した。また音声版時刻表はNHKオンラインからダウンロードできるサービスも実施。

表1 広報番組一覧 (2012年度)

	番組名	放送時間	内容	備考
地上	NHKとっておきサンデー 〔継続〕	総合 (日) 前11:00~11:54	07年より、BS2で放送していた『あなたのアンコール』と経営広報番組『三つのたまご』を発展的に解消して、11年度から『とっておきサンデー』として再スタート、12年度からは、視聴者の再放送のリクエストに応える『あなたのアンコール』がなくなり、54分の番組に短縮された。NHKの「見たい」番組・「知りたい」情報を日曜日の午前中、総合テレビの生放送で伝え、朝の連続テレビ小説の1週間ダイジェスト、そしてNHKの経営情報や地域放送局の取り組み、最新の番組情報を紹介するなど、視聴者への「窓」としての役割を担う。	生放送パートはNSCに全面委託。「どーも、NHKです」と「あなたの街のNHK」パートは本体制作。(40本)
	土曜スタジオパーク 〔継続〕	総合 (土) 後 2:00~ 3:00 (生放送)	毎回、2つの番組を取り上げ、ゲストとともに見どころや舞台裏など、魅力をたっぷり伝える。また、NHKの最新トピックスやゲストと視聴者の交流・特集企画など、盛りだくさんの内容でお届けする。	本体制作 (37本)
	もうすぐ9時 プレマップ 〔継続〕	総合 (月~木) 後 8:43~ 8:45	番組の見どころ、キャンペーンやイベント、経営・技術広報など、毎回1つのテーマで公共放送NHKの「今」を伝える広報番組。高視聴率帯に片山千恵子アナが明るくさわやかにプレゼンテーション。視聴者の理解を深め、接触率の向上を促進する。	NSCに全面委託 (170本)
	知ってる!? デジタル 〔継続〕 * 『デジタルQ』の後継番組 〔継続〕	総合 (日) 前 6:50~ 6:52 総合 (金) 後 3:12~ 3:14 * 毎月最終週は、金曜枠のみ	デジタルガイドの鈴木奈穂子アナウンサーが、デジタル放送の魅力を紹介する番組。実際にデジタル放送を生活に活かしている視聴者の様子も紹介しながら、分かりやすく伝える。	NSCに全面委託 (36本)
	週末プレマップ 〔継続〕	総合 (土) 後 6:42~ 6:45 後 0:40~ 0:43	週末番組の見どころ、キャンペーンやイベント、経営・技術広報などを伝える広報番組。土曜の夕方、片山千恵子アナが楽しくガイド。視聴者の理解を深め、接触率の向上を促進する。	NSCに全面委託 (40本)
	地上波スポット 〔継続〕	総合・Eテレ 随時 (30秒・1分)	番組・事業・経営広報などNHKのさまざまな取り組みを視聴者に効果的に伝え、公共放送の理解促進を深める	本体制作
	経営広報スポット 〔継続〕	地上・衛星 随時 (5秒・30秒・1分他)	受信料のお知らせや「環境」「地域応援」などNHKが取り組んでいる重要なキャンペーンをスポット展開し、視聴者のNHKに対する理解を促進する。	NSCに全面委託
	中央放送番組審議会 〔継続〕	総合 原則開催当月 最終日曜 前 6:51~ 6:53	各月の審議の概要を伝える。 (特集編成等で変更する場合あり)	本体制作
	地方放送番組審議会 〔継続〕	総合 原則開催翌月 第2土曜 前11:18~11:20	各月の審議の概要を伝える。 (特集編成等で変更する場合あり)	本体制作
	国際放送番組審議会 〔継続〕	総合 原則開催当月 最終日曜 前 5:45~ 5:47	各月の審議の概要を伝える。 (特集編成等で変更する場合あり)	本体制作
衛星	BSスポット 〔継続〕	BS2波・地上 随時 (15秒・30秒・1分)	BS2波の特性を生かした番組の魅力を、コンパクトに広報。戦略的な編成で、番組への関心呼び覚めます。	NSCに委託
その他	BS普及推進スポット 〔継続〕	衛星・地上 随時 (30秒・1分ほか)	「ヨーロッパサッカー」や「大リーグキャンペーン」など衛星普及の節目に、スペシャルスポット・ミニ番組などを展開	NSCに委託
	政見経歴放送 〔継続〕	総合・ラジオ第1 随時	衆院選・参院選・知事選の政見経歴放送のようを伝える	本体制作

そのほか、ハローダイヤルを活用したサービスにも取り組んだ。

3. インターネットによる広報

NHKオンラインの中のコンテンツ「NHKについて」を刷新。NHKの基本情報を体系的に伝えるページを新設。動画、漫画も掲載した。新年度、夏期特集、後期改定、年末年始の改編、特集時期ごとにオススメ番組を紹介するサイト「春ナビ」「夏ナビ」「秋ナビ」「冬ナビ」を運用。毎回、新たな企画を盛り込み、未接触者層の開拓に取り組んだ。秋と冬にはももいろクローバーZを起用し、『もうすぐ9時プレマップ』への出演等、放送とも連携。『大河ドラマ～平清盛』ではツイッター、『紅白歌合戦』ではLINEを活用し、番組解説や出演者のエピソード等を発信した。また、11年まで「がんばれルーキー」として行ってきたキャンペーンを13年度のスタートに向けては「NHK春の新生活応援キャンペーン」とし、若い視聴者層をターゲットに行ってきた営業支援キャンペーンは編成・制作・営業セクションと連携しながら内容も若者層の“今求められるグローバル人材”をテーマにしたウェブサイトを開設（2.12スタート）。語学番組や教養系番組への誘導を図りながら、“自分磨きに役立つNHK”をスポット連携で強く訴求、キャンペーン展開を行った。

年間を通じて開設している『大河ドラマ』『連続テレビ小説』の公式サイトも作品ごとに充実度を高め、視聴誘導を図った。

さらに記者会見や取材会の様子を詳しくお伝えする「コレ見て！MOVIE」、番組スポットを集めた動画サイト「テレマップMOVIE」、若い女性をメインターゲットにゆる～く番組を紹介する「WONDER！web」の各サイトを運用し、さまざまな角度から番組紹介を行った。

表2 特集番組一覧（2012年度）

放送日	メディア	タイトル
4月1日	BSP	春のBS渋谷で会いまショー
4月、10月	G	1分スポット「ここに、公共放送」
4月7日	G	土曜スタジオパークin蒲田「梅ちゃん先生」特集 東京・蒲田から生放送
4月21日	BS1・E	沖縄本土復帰40年 特別番組消紹介
4月	G・BS1・BSP	「ひらり東北の春」合唱イメージスポット
5月3日	G	渋谷DEども 2012
5月14日～随時	BSP	BSプレミアム イギリス特集イメージスポット
5月21日～随時	BSP	ふるさとスカイツリー フォトフィルター

放送日	メディア	タイトル
6月28日	G	ミラクルアイランド小笠原
6月～随時	G・BS1・BSP	「まささかり東北の夏」合唱イメージスポット
6月～随時	全波	ロンドン五輪「全力応援」スポット、クラッチ
7月	G・R1	データ放送とPCでオリンピックを楽しく
7月9日	G・BSP	ドラマ 薄桜記の魅力に迫る！
7月20日	G・BS1	ロンドン五輪完全攻略 みんなで走ろう！ロンドンマラソン
7月22日	BSP	祭りだ祭りだ 東北夏祭りスペシャル
7月29日～8月12日	BS1	BS五輪のミカタ
8月	G他	ロンドンパラリンピック イメージミニ
8月13日～	全波	受信料値下げ 告知スポット・クラッチ
8月28日～	G	秋のドラマ イメージスポット
8月28日～	G	“防災と震災を考える1カ月”関連番組PRミニ
9月19日～	G他	受信料値下げ あなたの場合は？
9月22日	BSP	秋のBS 渋谷で会いまショー
9月30日	G・R1	あすから受信料値下げ
9月	全波	受信料値下げ スポット・クラッチ
10月、2月	BSP	ミニ番組「キズナのチカラ」「キズナでチャレンジ」
10月～	BSP	美力UP イメージスポット
10月～	G他	もっと知りたい ヨーロッパサッカー
10月6日	BSP	梅ちゃん先生は終わらない ～梅ちゃん☆大感謝祭
10月6日	G	土曜スタジオパークin大阪「純と愛」特集/大阪放送局から生放送
10月9日	G	ももクロ 秋の新番組に全力でお邪魔します！
11月～	G他	ウィンタースポーツキャンペーン スポット・クラッチ
11月20～21日	BSP	にっぽん再発見 KANAGAWAフォトフィルター
12月	全波	歳末・海外たすけあい 特集スポット
12月1日	G・R1	きょうから歳末・海外たすけあい
12月16日	G	第10回ミニミニ映像大賞
12月	G他	2012年度 年末年始番組特集スポット
12月22日	G	年末ナビ きらきら☆姫気分
12月23日	G	第10回ミニミニ映像大賞 番外編
12月24日	G	NHKとっておきサンデー増刊号 2012年末スペシャル
12月24日～31日	G	Eテレ 元日特集1分PR
12月25日	G・R1	歳末・海外たすけあいを終えて
12月28日～1月3日	G	もうすぐお正月！年始ナビ
12月31日	G	特集スタジオパーク 大みそかスペシャル
1月22日～随時	G	NHK TV60 ミライテレビ60
1月25日～	G	NHK TV60 ミニドラマ ブラウン・カーン
1月26日	G	今日からスタート！テレビ60年感謝祭

放送日	メディア	タイトル
1月26日	G	土曜スタジオパークin福島 「八重の桜」を特集 福島・須賀川 から生放送
1月30日	G	ミニミニグランプリ監督作品上映
2月2日～	G	NHK TV60 オモイデテレビ
2月～	G他	住所変更自主申し出推進スポット・ クラッチ 「ネットで簡単!」
3月～	G他	BSキャンペーン 「わたしはBS押 し」 スポット・クラッチ
3月22日	G・R1	NHK平成25年度予算審議～衆議院総 務委員会～
3月28日	G	土曜の夜が変わる
3月28日	G・R1	平成25年度予算審議～参議院総務委 員会～
3月30日	G・BSP	春のBS 渋谷で会いまショー

営業

営業の組織

(1) 営業拠点

受信契約の徹底と受信料の確実な収納を図るため、各地域放送局内の営業部のほかに、大都市圏地域には18の営業センターを置いている。全国合わせて75の営業部と営業センターを営業活動の拠点としている。各営業拠点では、地域別や業務内容別（地域スタッフ対応、事業所対応、お客様対応など）に業務実施グループを編成し、営業活動を実施している。

(2) 営業活動単位

① 営業職員

地域スタッフの指導や支援活動、ケーブルテレビ・事業所などとの渉外業務や、視聴者からの問い合わせ対応、地域状況の分析を行う。

また、受信契約の契約・収納業務を行う。

② 地域スタッフ

委託契約に基づき、受信料の契約・収納業務を行う。

③ 法人委託

委託契約に基づき、受信料の契約・収納業務を行う。電器店や不動産会社等、契約業務のみを行う場合もある。

I. 受信契約

1. 受信契約者の維持・増加活動

単身世帯等の面接困難世帯の増加等や経済状況

の低迷等の影響により、営業活動を取り巻く環境はますます厳しさを増している。

こうした中で、法人事業者への契約・収納業務委託を段階的に拡大するなど効率的な営業体制の構築を図るとともに、未契約・未収者への早期対応に向け、携帯端末に登録した情報に基づいた活動や、面接好適時間帯における対策に積極的に取り組んだ。

さらに、衛星放送の普及促進に不可欠なケーブルテレビ事業者や電器店等と連携した活動や、マンション入居者対策として不動産事業者との業務委託による契約取次活動を展開した。

そのほか、BSデジタル機器に同梱される「ファーストステップガイド」への衛星契約書の封入やCASメッセージ機能やダイレクトメールを活用した契約勧奨、「受信料の窓口」（インターネット営業センター）や「NHKフリーダイヤル」による受信契約・住所変更の受付を行った。

12年度の契約総数（有料無料計）は、年間で56万件増加し、年度末における契約総数は4,083万件（有料無料計）となった。

2. 事業所などの受信契約

家庭に設置されたテレビなど受信機の受信契約は、受信機の台数にかかわらず1世帯1契約としているが、会社・官公庁・ホテル・旅館・病院などいわゆる事業所の場合は、テレビの設置場所ごとに受信契約が必要となっている（放送受信規約第2条）。

12年度は、11年度に引き続き、同一敷地内全数契約を条件とした事業所割引や業界団体への業務委託を活用するなど、公平負担の徹底に向けたきめ細かい活動を全国的に展開した。

その結果、年間で11万件的受信契約件数の増加となり、年度末の事業所契約件数は261万件となった。

3. 営業システム

受信料の請求、収納など営業活動の支援は、「EGGSシステム」を活用して行っている。

受信料値下げに伴うシステム開発やテスト、新料額の視聴者データベースへの反映、改定差額の算出と精算、営業担当者のための手順書作成と全国周知等についてきめ細かく対応した。

さらなる営業業務の効率的・効果的な推進を目指し、最新技術を導入した次期携帯端末の開発、民事業務へのシステム支援、EGGS端末の更新、CAS対策スキーム変更、受信料一括収納等を実

施するとともに、消費税対応、拠点体制見直し等、重要課題へのシステム検討を進めた。

インターネットによる自主申出の拡大に向けては、手続きページのユーザビリティ改善により視聴者のニーズに合わせた利便性の向上と取次数の増加を図っている。

II. 受信料の収納

1. 口座振替など間接收納の促進

受信料の収納は、口座振替・クレジットカード継続払・継続振込によって行っている。

近年、単身世帯や共働き世帯の増加、オートロックマンションの普及などにより面接困難世帯の割合が高くなり、営業活動の困難度も増している。

こうした中で、収納の安定化や効率の業務推進のため、これまで口座振替の拡大を進めてきたが、06年6月からは「クレジットカード継続払」の支払いを開始し、12年度末の利用件数は372万件となった。

振込用紙発送時や新規の受信契約を取り次ぐときに、口座振替・クレジットカード継続払の利用勧奨を積極的に行っているほか、ダイレクトメールによる勧奨も実施している。

12年度末の口座振替・クレジットカード継続払による受信料支払い件数は3,009万件で、これらの利用割合は78.9%となった。

2. 受信料の収納体制

①口座振替は、都市銀行、地方銀行、第二地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、農協、漁協、ゆうちょ銀行が利用可能となっている。

②クレジットカード継続払は、12年度末時点で20ブランドのカードが利用可能となっている。

③継続振込の取り扱い窓口は、都市銀行、地方銀行、第二地方銀行、信用金庫、農協、コンビニエンス・ストア、ゆうちょ銀行または郵便局である。

このほか、ケーブルテレビ事業者による受信料「団体一括支払」制度により、収納の効率的な推進に努めた。

3. メッセージ機能の活用強化

BSデジタル放送の設置確認を効果的に行い、受信料の公平負担を徹底するため、BSデジタル放送のテレビ画面に、BS受信機の設置についてNHKへの連絡を促す設置確認メッセージを表示している。

BSデジタル放送の視聴開始30日後から、NHKのBSデジタル放送にチャンネルを合わせるたびに、テレビ画面の左下隅に設置確認メッセージが表示される。

画面に表示されたいずれかの方法で、B-CAS（ビーキャス）カード番号、名前や住所などを連絡すると、設置確認メッセージ表示の消去を受け付ける。NHKでは、この情報を基に、契約状況を確認し、衛星契約が済んでいない方には、契約の依頼を行っている。さらに、受信機設置の連絡後、一定期間を経てもなお衛星契約の届けがない場合に契約案内メッセージを表示する運用を10年12月から開始している。

【受信機設置のご連絡のお願い】

NHKでは、衛星契約済みの方も含め、衛星放送受信機ごとに、設置のご連絡をお願いしております。このメッセージの詳しい消去方法は、リモコンの青ボタンを5秒以上押し続けると表示されます。

電話の場合は0120-933-933

また、BSデジタル受信機にこん包されている「BS デジタル機器設置連絡票」を、受信機購入後速やかに投かんしてもらえば、あらかじめ設置確認メッセージが表示されないようにすることもできる。

※B-CASカード

BSデジタル受信機には、ICチップのついたB-CASカードが必ず添付されている。

著作権を保護するコピー制御の仕組みがあるため、デジタル放送を視聴するためには、このカードを受信機の所定の場所に差し込む必要がある。このカードの機能により、メッセージの表示のほかに、WOWOWなどのスクランブル放送や、高度な双方向サービスといったBSデジタル放送の魅力的なサービスを、十分に楽しむことができるようになっている。

III. 視聴者との回路作り

1. 視聴者との結び付き強化

(1) 受信料の支払率向上に向けた視聴者対応

公開番組や各種イベント開催時など、視聴者と直接触れ合う場において受信料の支払率向上に向け、公共放送・受信料制度への理解促進と的確な視聴者対応を行うことができるよう、リーフレット等の充実に努めた。

①理解促進ツールの拡充

公共放送・受信料制度に対する理解促進については、リーフレット以外にもインターネットホームページを積極的に活用し、支持層の拡大を図った。また、公開番組の収録時において、開演前のあいさつを兼ねた受信料制度の説明や大画面での理解促進ビデオ上映などを行った。

②地域スタッフへの情報提供と研修

地域スタッフが視聴者を訪問する際に、ニーズに応じた番組の案内ができるように、毎週の番組情報を定期的に提供するとともに、新番組の上映会や番組制作担当者による番組説明会を開催した。さらに、視聴者との対応スキル向上、視聴者の立場に立った営業活動のあり方、番組情報などを内容とする研修ビデオを制作した。

(2) 放送番組などを活用した視聴者対応

全国各地の放送局において、放送番組やイベントを通じて視聴者と積極的な交流を図り、デジタル放送の普及、公共放送の理解促進に努めた。

①公開番組・イベントと連動した営業活動

各地の視聴者との交流を図るため、公開番組や各種イベントと連動した営業活動を実施する「エリアターゲット」を全国で展開したほか、地域向け放送などを通じ、地域放送局が主体となって幅広い理解促進活動を実施した。

②デジタル放送の普及促進活動の展開

地上・BSデジタル放送に関する情報を番組やホームページで周知するほか、「デジタル体感ランド」などのイベントを通じて地上・BSデジタル放送の一体的な普及促進を図った。

2. 視聴者の意向吸収と業務への反映

(1) 視聴者意向の吸収

職員や地域スタッフ、委託法人などによる訪問活動や電話対応など日常の営業活動の中で、視聴者意向の吸収に努めた。

(2) 視聴者意向の業務への反映

番組に対する視聴者の反響や意見については、番組改定時における番組制作や編成業務の参考資料として活用している。

3. NHKふれあいセンター（受信料関係）

東京・大阪・福岡・仙台の4つのふれあいセンター（営業）で、視聴者からの電話による「放送受信契約の申し出」「受信料関係の問い合わせ」の受付業務を実施した。毎年多くの転居連絡を受ける4月の引っ越しシーズンには手厚い対応体制を整えたほか、10月に実施された受信料の値下げ

についての数多くのお問い合わせに対しても迅速・正確・親切な対応を行うように努めた。一方で、口座振替の利用勧奨や継続振込等の入金依頼など、受信契約者へのアウトバウンド業務も積極的に展開した。

また、東京のふれあいセンター（営業）では、インターネットによる受信契約や住所変更、受信料の支払方法変更などの申し出に対応する「インターネット営業センター」業務を行ったほか、BSデジタル放送の「メッセージ消去」については、7月・8月のロンドンオリンピック期間中は競技の放送時間に合わせ、深夜まで延長して受付業務を行った。